

平成 30 年度
港北区地域福祉保健計画に関する区民意識調査
報告書

平成 31 年 2 月
港北区福祉保健課
港北区社会福祉協議会

はじめに

港北区では、平成 18 年度に第 1 期地域福祉保健計画が策定されました。

現在は平成 28 年から 5 年計画で第 3 期地域福祉保健計画「ひっとプラン港北」を推進しているところです。平成 30 年度に中間期を迎えるにあたり、健康づくりや地域福祉活動に関する区民の意識や意向、行動などの現状を把握し、計画の進捗状況を確認するために、今回「地域福祉保健計画に関する区民調査」を実施し、報告書としてまとめました。

港北区は、市内 18 区の中で最も多い 35 万人もの人口を抱えており、多くの区で人口が減少する中、今後も緩やかな増加が見込まれていることから、より多様化する保健・福祉課題への対応が必要になると考えられます。

今後、この調査結果等を活用して、地域福祉保健計画を推進していく方策の検討に生かしていきます。

最後になりますが、調査にご協力くださいました多くの区民の皆さまに心より厚くお礼申し上げます。

平成 31 年 2 月

港北区福祉保健課
港北区社会福祉協議会

平成 30 年度 港北区地域福祉保健計画に関する区民意識調査 報告書 目次

はじめに	1
1 調査の概要	3
2 回答者の属性	5
3 調査結果	13
(1) 自治会・町内会加入率		
(2) 隣近所との付き合い		
(3) 地域住民の関係づくりのために最も必要だと思うこと		
(4) 地域活動への参加経験と今後の参加意向		
(5) 地域活動に参加して良かったと思うこと		
(6) 地域活動に参加しやすい条件		
(7) 地域福祉保健計画「ひっとプラン」の認知		
(8) 港北区で特に必要と考える（地域福祉保健計画の）取組		
(9) 地域ぐるみで子どもを見守るために最も必要だと思うこと		
(10) 障がいの有無に関わらず住民が主体的に参加できるまちをつくるために最も必要 だと思うこと		
(11) 高齢者への日常的な支援として必要だと思うこと		
(12) 「健康づくり」を意識した活動参加		
(13) 住みやすい地域になるために、特に重要な福祉保健の取り組み		
(14) 隣近所で困っている方への手助けや見守り		
(15) 手助けや見守りの内容		
(16) 今後、自分ができると思う困っている方への手助け		
4 【参考】平成28年度区民意識調査との比較	45
5 調査票	53

調査概要

1 調査方法の概要

(1) 調査の目的

港北区地域福祉保健計画（5 か年計画）の推進のため、港北区民の健康づくりや福祉に関する意識や行動について基礎的な状況を調査し、区民の特性に応じた取組や事業展開を図ることを目的とする。

(2) 調査対象

- ① 港北区に居住する 20～59 歳の男女（外国人を除く） 1,000 人
- ② 港北区に居住する 60 歳以上の男女（外国人を除く） 1,200 人

(3) 調査方法

① インターネットによるアンケート調査

インターネット調査会社に登録している港北区内在住のモニターに調査画面を配信して、アンケートを依頼。（最終的な有効回答者が 1,000 名以上確保でき、さらに有効回答者の構成が各年代性別で同じになるように割付）

② 郵送によるアンケート調査

住民基本台帳原票からの無作為抽出（1200 人）

(4) 回収数

合計 1,673 件

- ① インターネットによるアンケート調査 1,044 件
- ② 郵送調査 629 件（回収率 52.4%）

(5) 調査期間

平成 30 年 9 月 8 日（土）～平成 30 年 9 月 21 日（金）

(6) 分析方法

統計分析は横浜市衛生研究所が行った。

統計学的検定は χ^2 検定および Kruskal Wallis の検定を用い、 $p < 0.05$ で有意差ありとした。

< 報告書を見る際の注意点 >

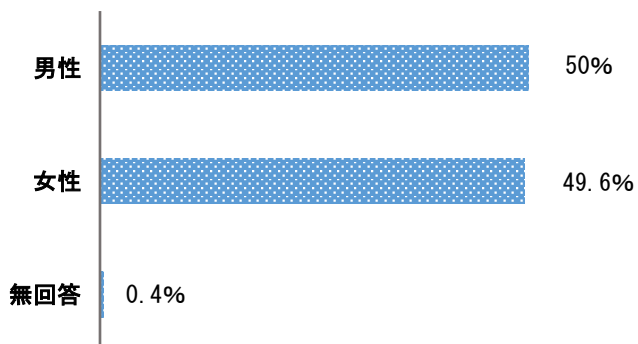
- ① 各図中の右側に示した「N=〇〇」は、その質問や集計に対しての「有効回答者数」を表す。
- ② 調査結果の比率はすべて百分率で表し、その設問の回答者数を基数として、小数点以下第 2 位を四捨五入して算出している。そのため、百分率の合計が 100%にならないことがある。

調査回答者の属性

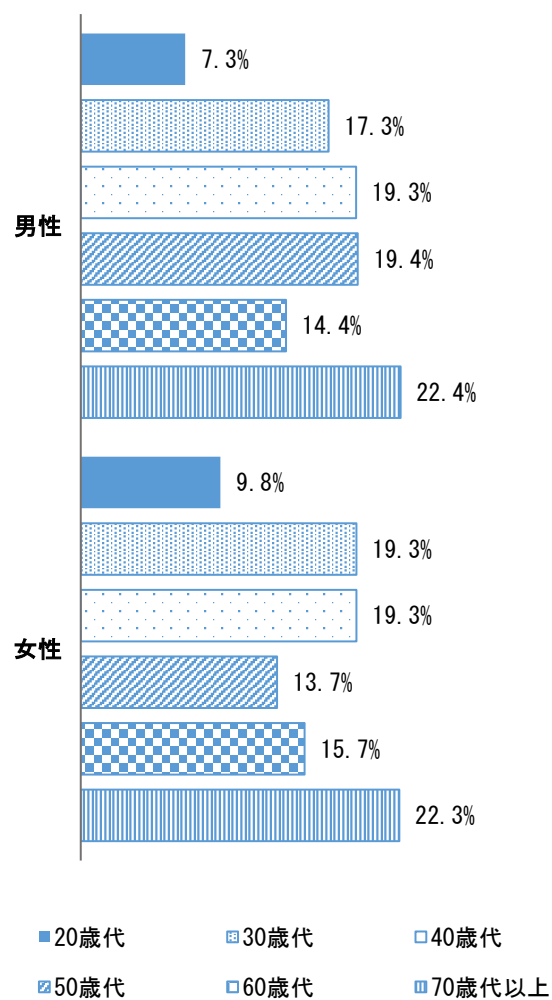
2 調査回答者の属性

調査回答者の男女比はほぼ同率で、年代は70歳以上、40歳代、30歳代の順に多い。男性は70歳代以上、40～50歳代が6割を占め、女性は70歳代以上、30～40歳代が6割を占めている。

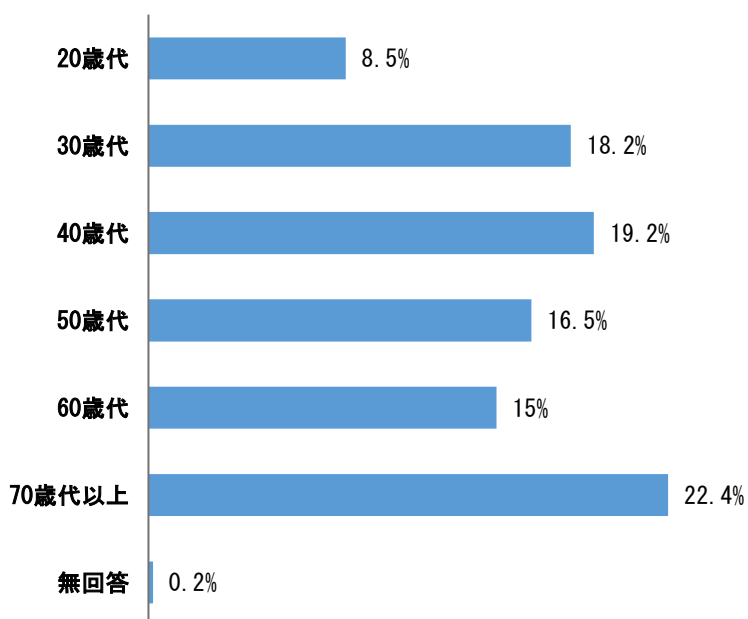
問1 性別 【n=1,673】



問1×問2 性年代別 【n=1,666】



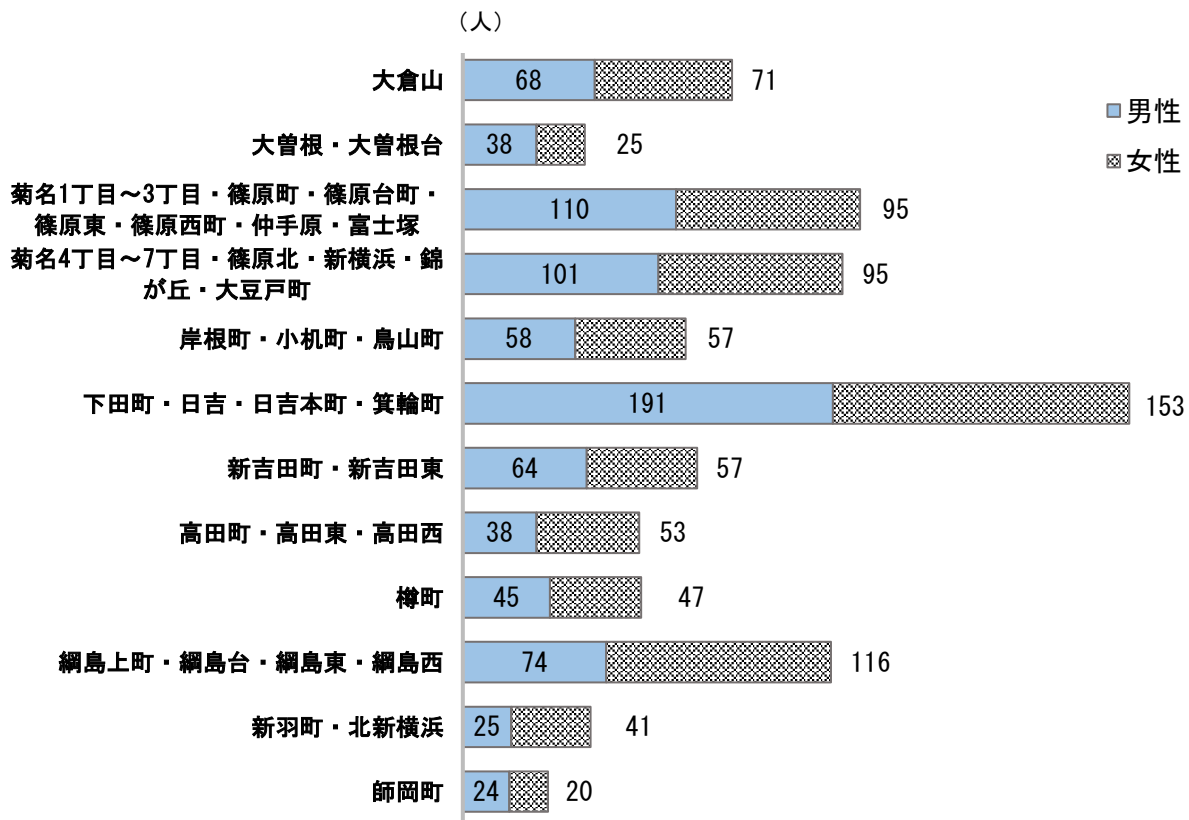
問2 年代 【n=1,673】



問3×問1 性別居住地域（連合単位）

【n=1,666】

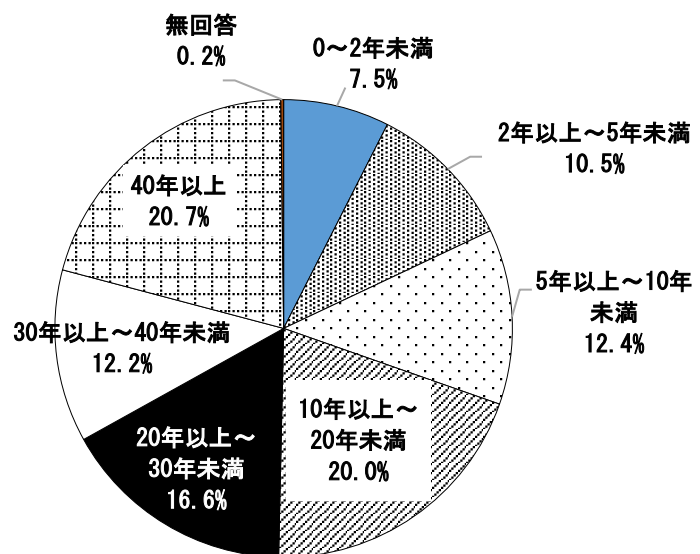
各連合町内会内からの回答が得られた。人数については以下のとおり。



問4 居住歴

【n=1,673】

40年以上居住していると回答した者が最も多く、次いで10年以上20年未満と回答したのが多い。

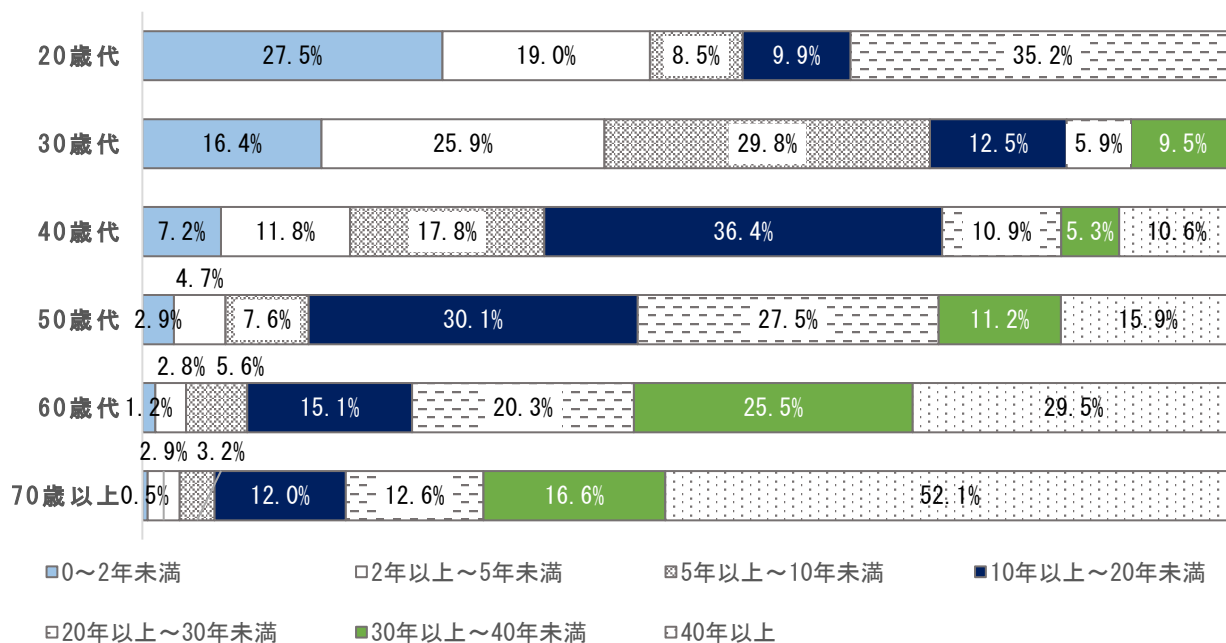


問4×問2 年代別居住歴

【n=1,669】

P<0.05

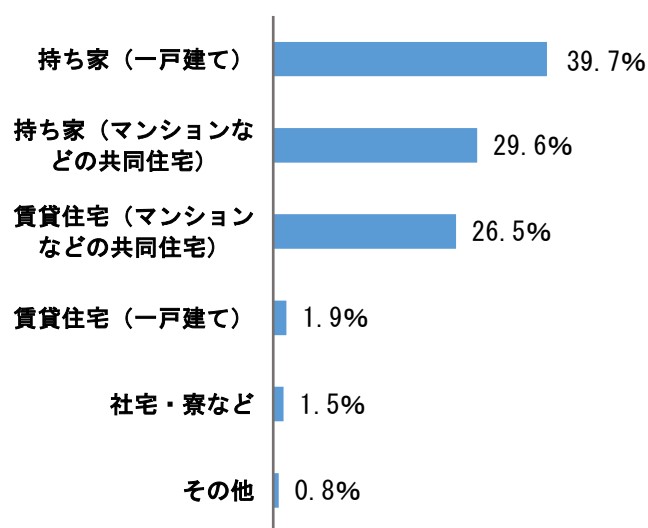
60歳代以上では、30年を超える居住歴のある者が5割以上、20歳代では20年を超える居住歴のある者が3割以上を占めている。



問5 住宅の形態

【n=1,673】

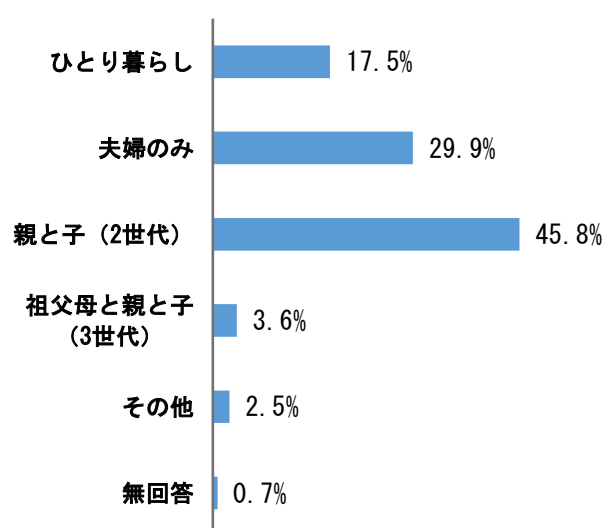
持ち家に居住している者が約7割を占めている。



問6 世帯構成

【n=1,673】

2世代の世帯が4割を超えて最も多く、次いで夫婦のみ世帯が約3割を占めている。

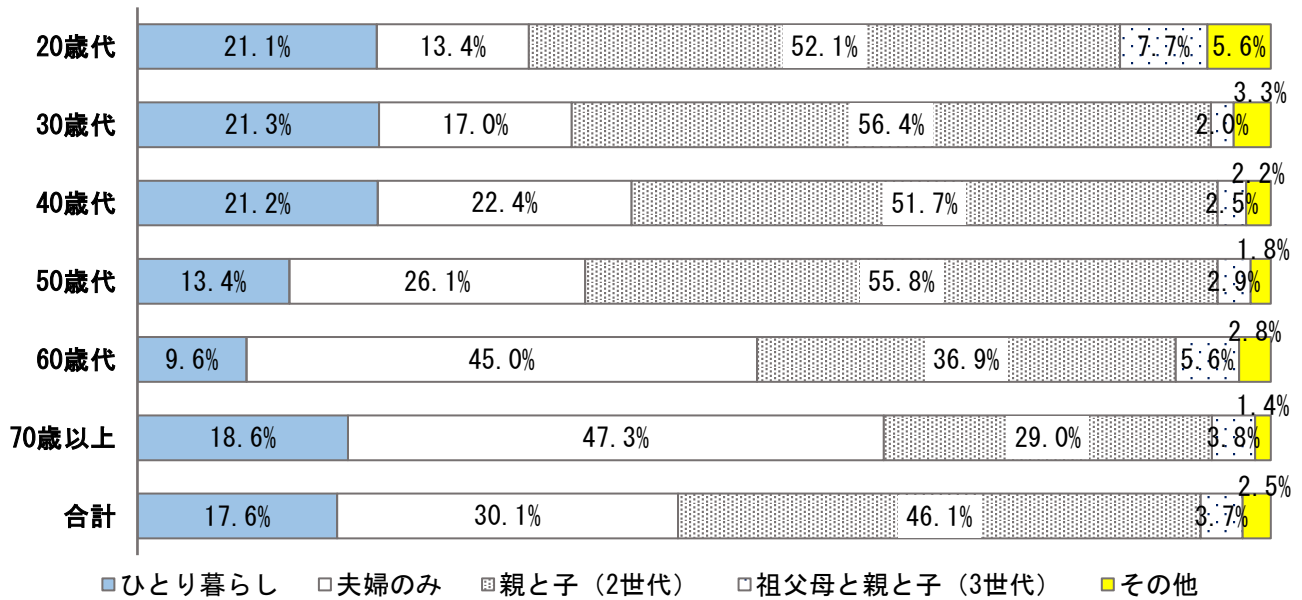


問6×問2 年代別世帯構成

【n=1,659】

P<0.05

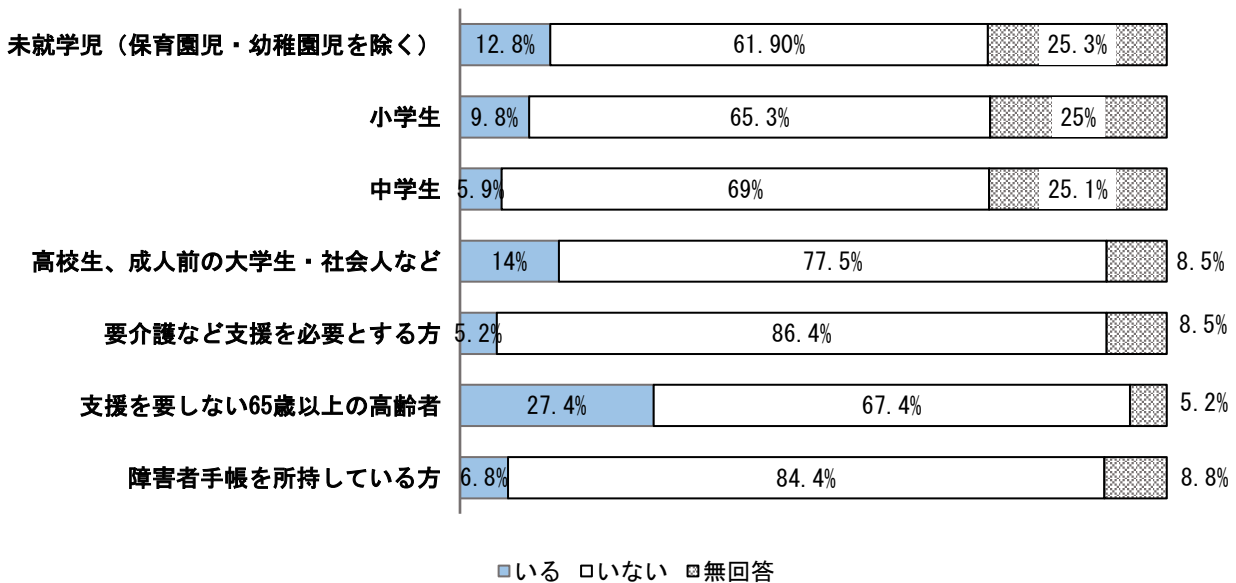
20～50歳代は2世代が半数を超えて最も多く、60歳代以上では夫婦のみの世帯が4割以上と最も多い。



問7 同居家族の内訳

【n=1,370】

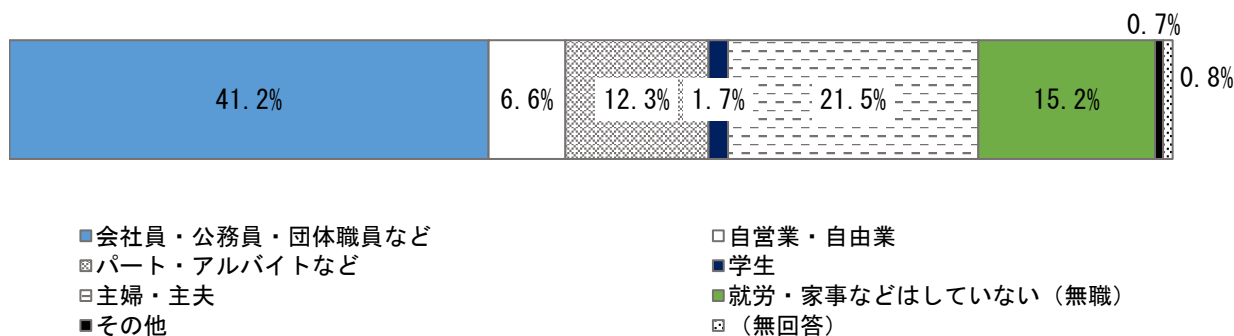
約3割の者が「支援を要しない65歳以上の高齢者」と同居している、と回答している。



問8 就業状況

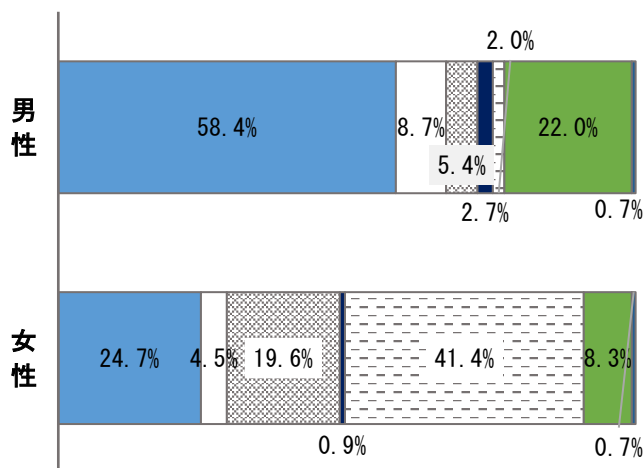
【n=1,673】

区全体では、会社員等の常勤労働者が4割と最も多く、パート・アルバイトを含めると6割の者が何らかの形で就労している。性別で見ると、女性の会社員等の常勤労働者の割合は、男性の半分以下となっているのに対し、主婦の割合が4割を超え最も多くなっている。また、2割の男性は就労・家事をしていないと回答している。年代別で見ると、60歳代ではおおよそ半数が何らかの形で就労し、70歳以上では就労・家事をしていないと回答した割合が約5割に逆転している。



問8×問1 就業状況（性別）【n=1,653】

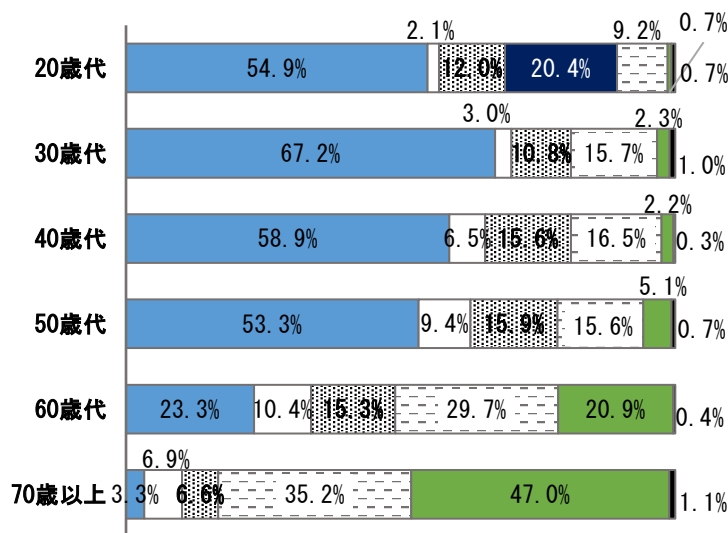
P<0.05



- 会社員・公務員・団体職員など
- 自営業・自由業
- ▨ パート・アルバイトなど
- 学生
- 主婦・主夫
- 就労・家事などはしていない（無職）
- その他

問8×問2 就業状況（年代別）【n=1,657】

P<0.05



- 会社員・公務員・団体職員など
- 自営業・自由業
- ▨ パート・アルバイトなど
- 学生
- 主婦・主夫
- 就労・家事などはしていない（無職）
- その他

調査結果

3 調査結果

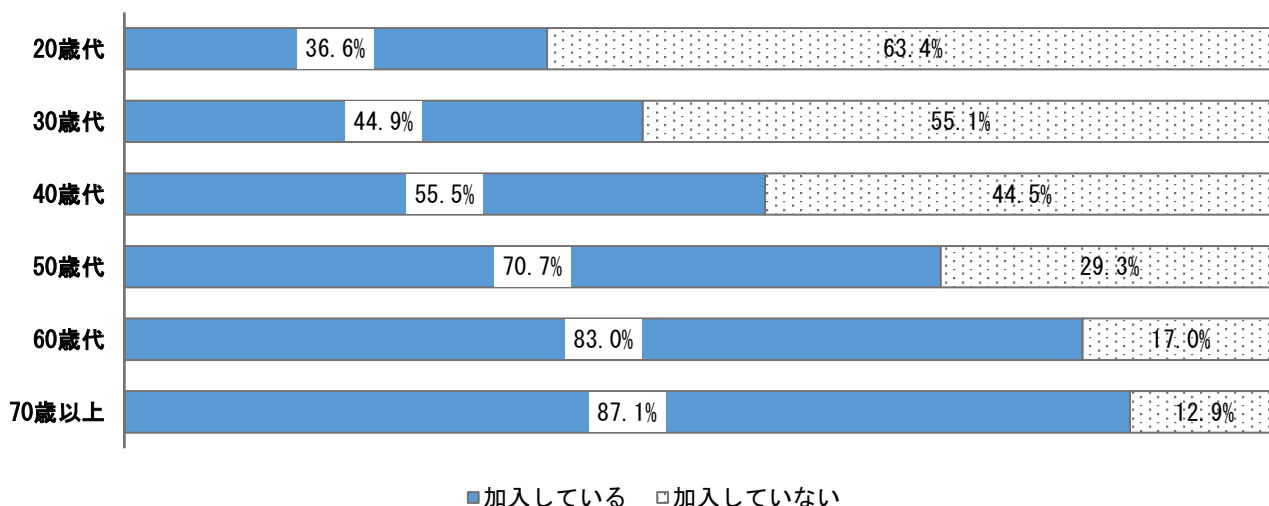
問9 町内会加入率 【n=1,673】

全体的には、6割以上が自治会町内会に加入しているが、20歳代で加入率は最も低く、年代が上がるごとに加入率が上昇している。



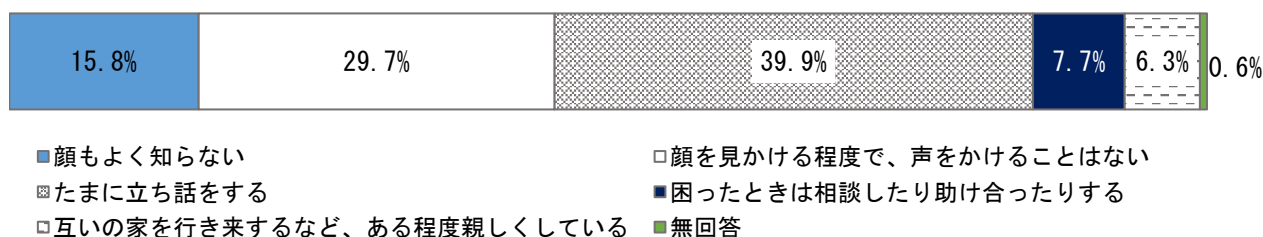
問9×問2 年代別自治会・町内会加入率 【n=1,662】

P<0.05



問10 隣近所との付き合い（現在） 【n=1,671】

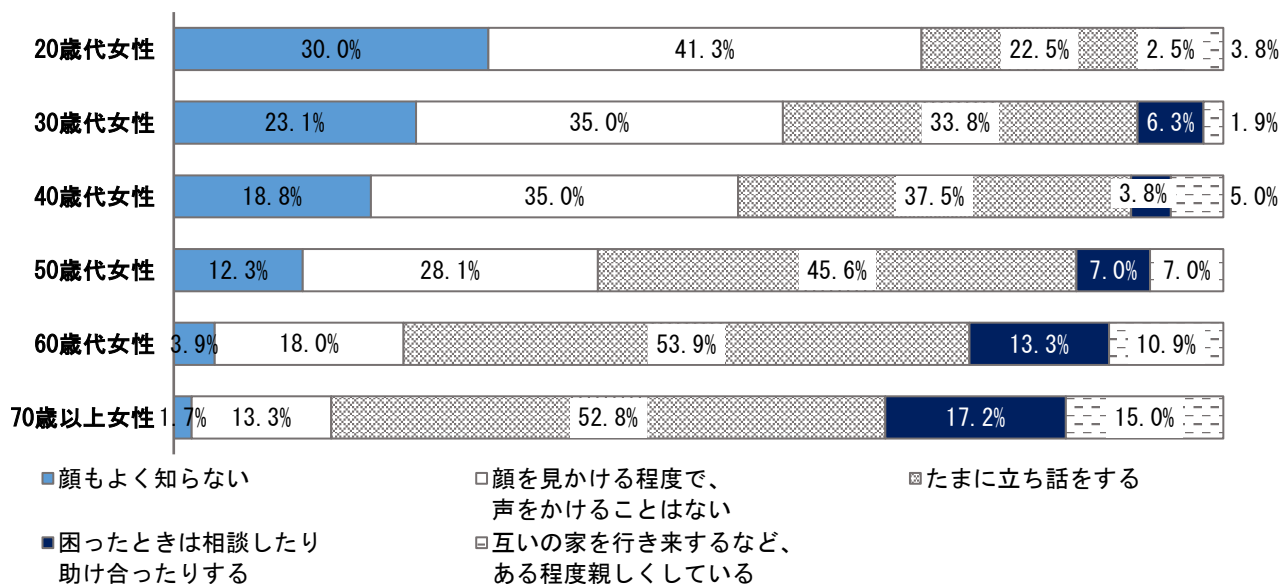
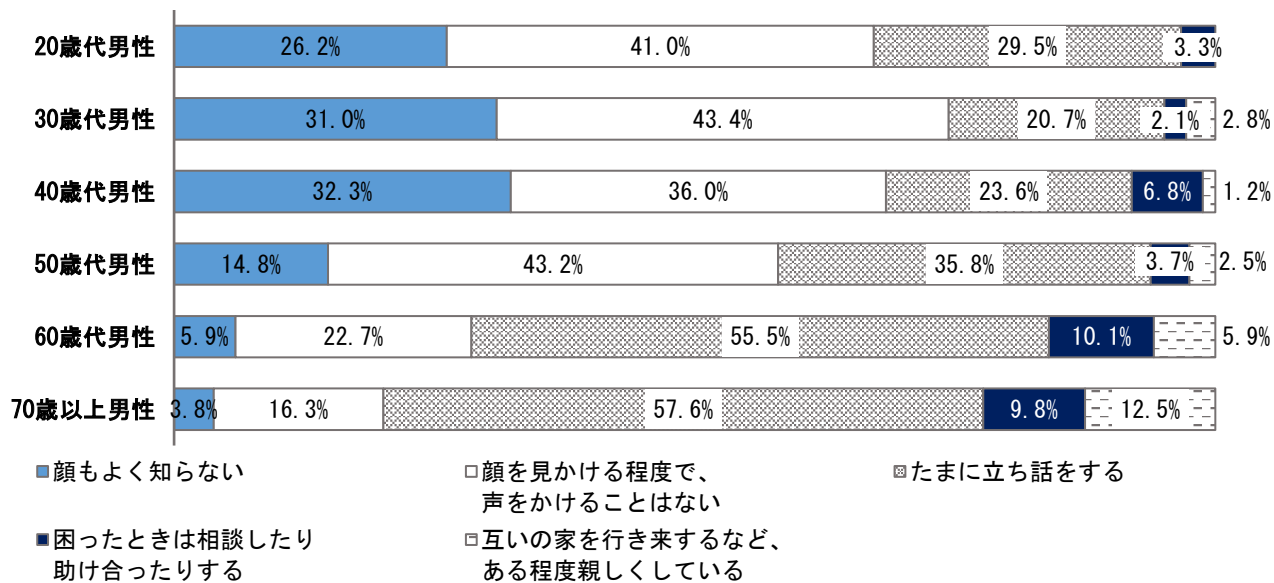
全体的には「たまに立ち話をする」と回答した割合が4割と最も多く、更に深い親交があると回答した割合を含めると、全体の5割以上で日常的に近所付き合いをしている。性年代別にみると、20歳代では男性のほうが日常的に近所づきあいをしている割合が高く、30歳代以降は女性のほうが日常的に近所づきあいをしている割合が高くなる。更に女性は深い親交があると回答する割合も高い。



問10×問1×問2 性年代別隣近所との付き合い（現在）

【n=1,654】

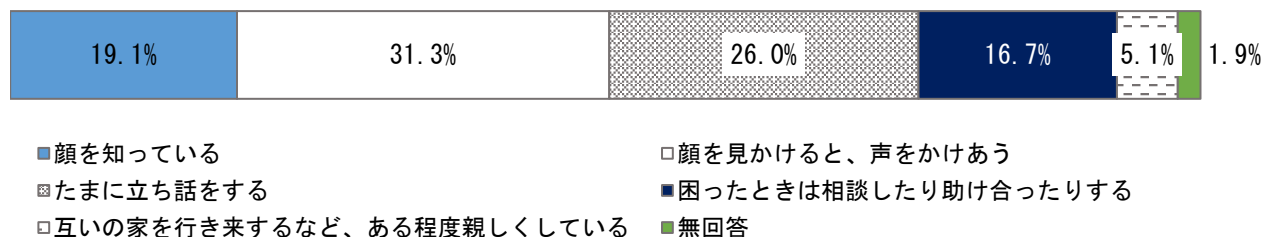
P<0.05



問11 隣近所との付き合い（今後の意向）

【n=1,663】

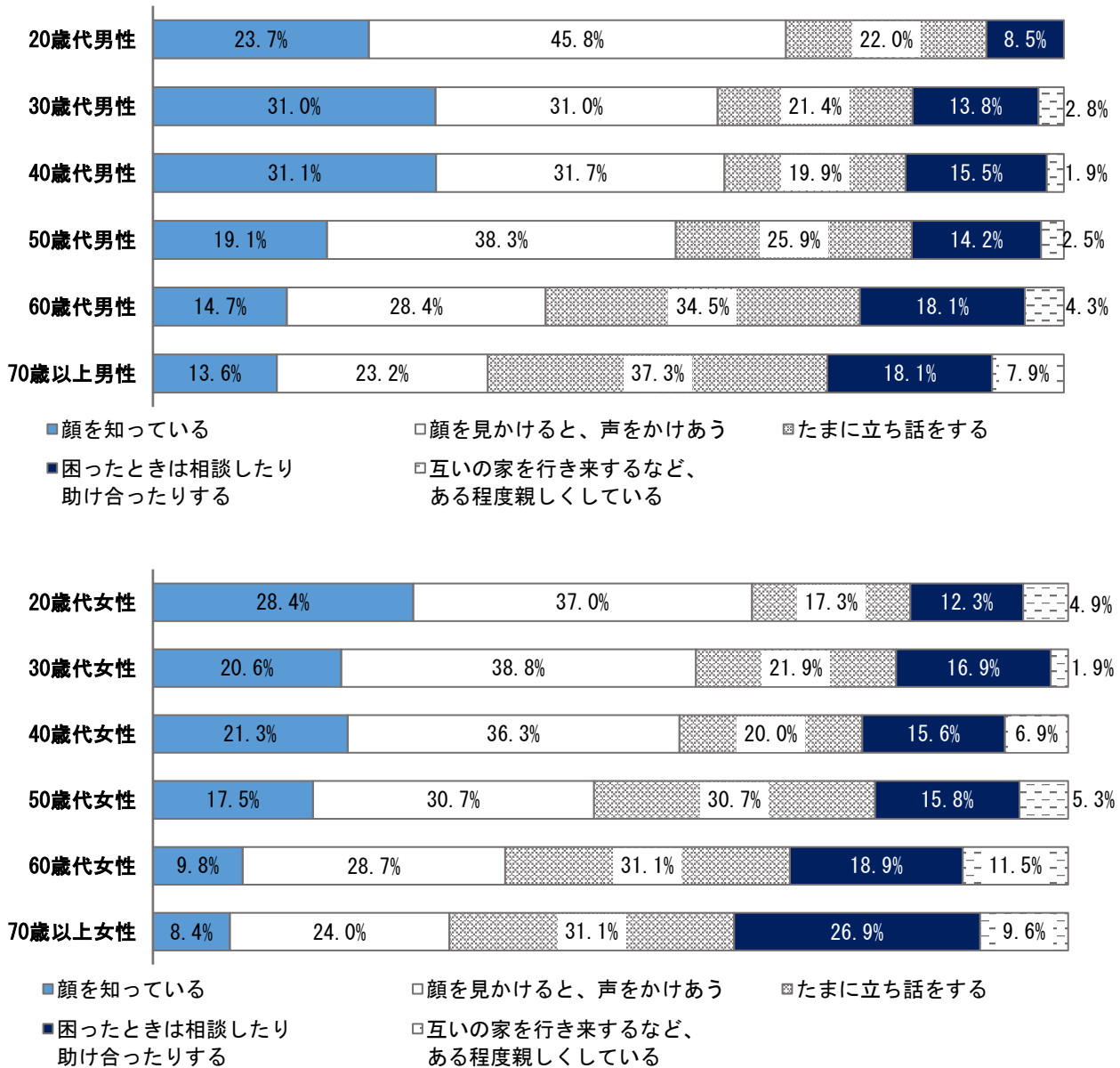
全体的には「顔を見かけると声をかけ合う」と回答した割合が3割と最も多く、顔見知り・声かけの関係を求める割合が半数を占めている。【隣近所との付き合い（現在）】と比較すると、「たまに立ち話をする」が減少し、「困ったときは相談・助け合う」が増加している。



問11×問1×問2 性年代別隣近所との付き合い（今後の意向）【n=1,624】

P<0.05

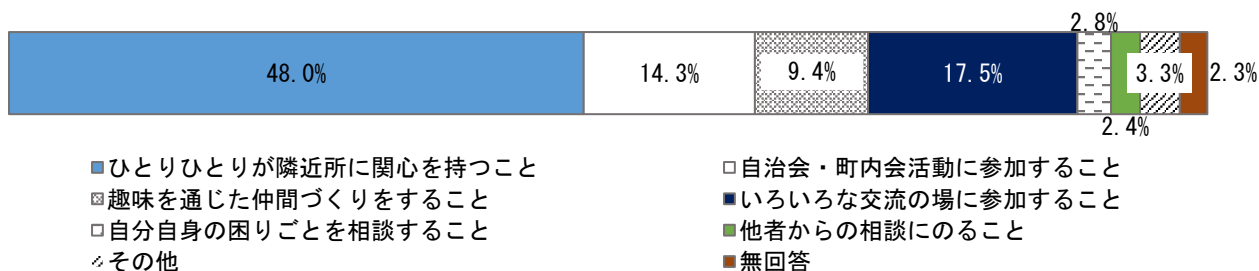
男女ともに、20～50歳代では「顔を見かけると声をかけ合う」関係を求める割合が最も多く、60歳代以上では「たまに立ち話をする」関係を求める割合が最も多い。現在と今後の意向を比較すると、「困ったときは相談・助け合う」と回答した割合が男女全年代で増加しているものの、男性の30～50歳代以外は顔見知り・声かけの関係を求める割合が増加している。



問12 地域住民の関係づくりのため最も必要だと思うこと

※問11で「たまに立ち話をする」以上の意向があると回答した者 【n=784】

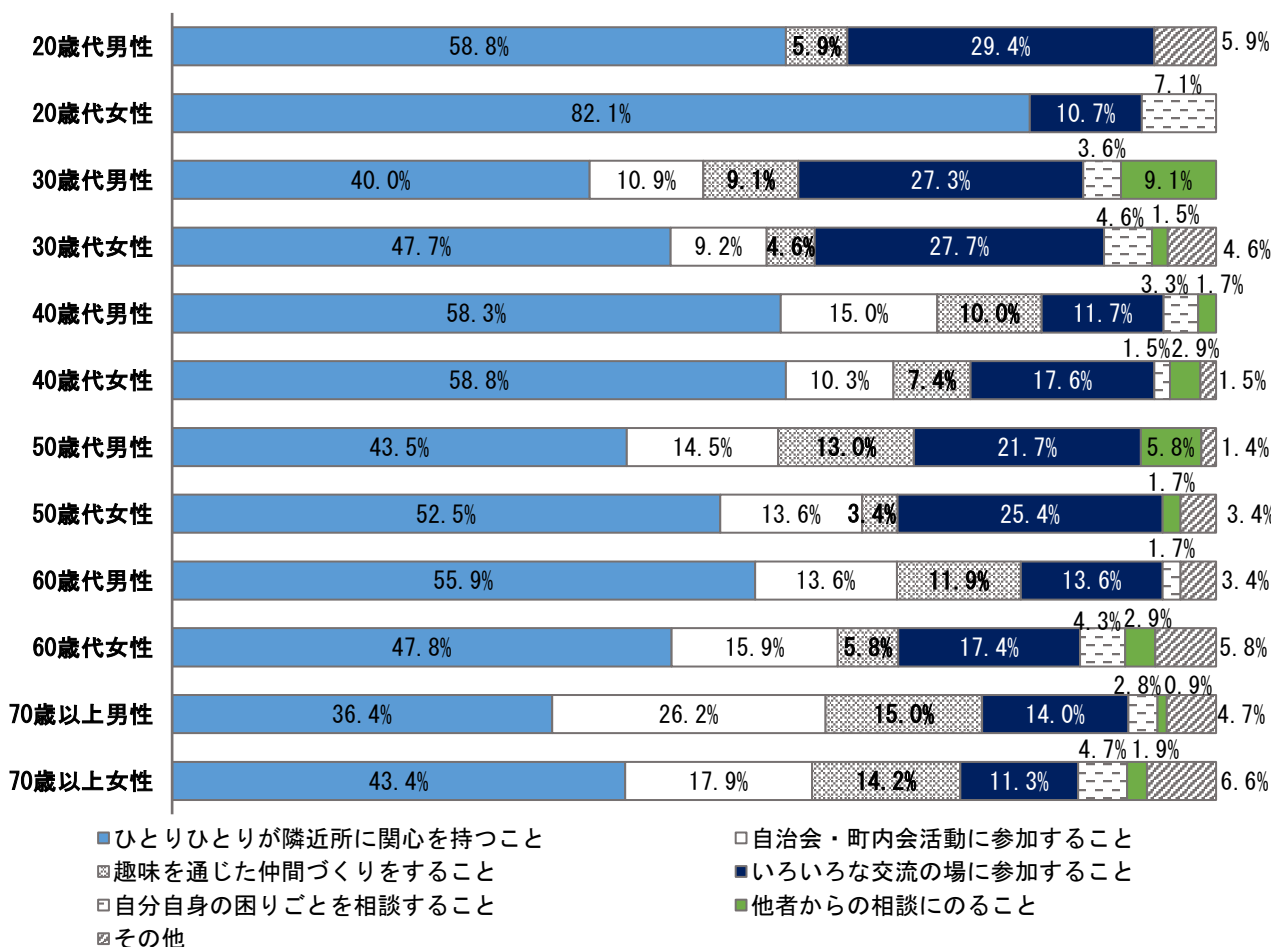
隣近所への関心を持つことと回答した割合が最も多く、次いで交流の場への参加と回答した割合が高い。



問12×問1×問2 性年代別地域住民の関係づくりのため最も必要だと思うこと

【n=762】

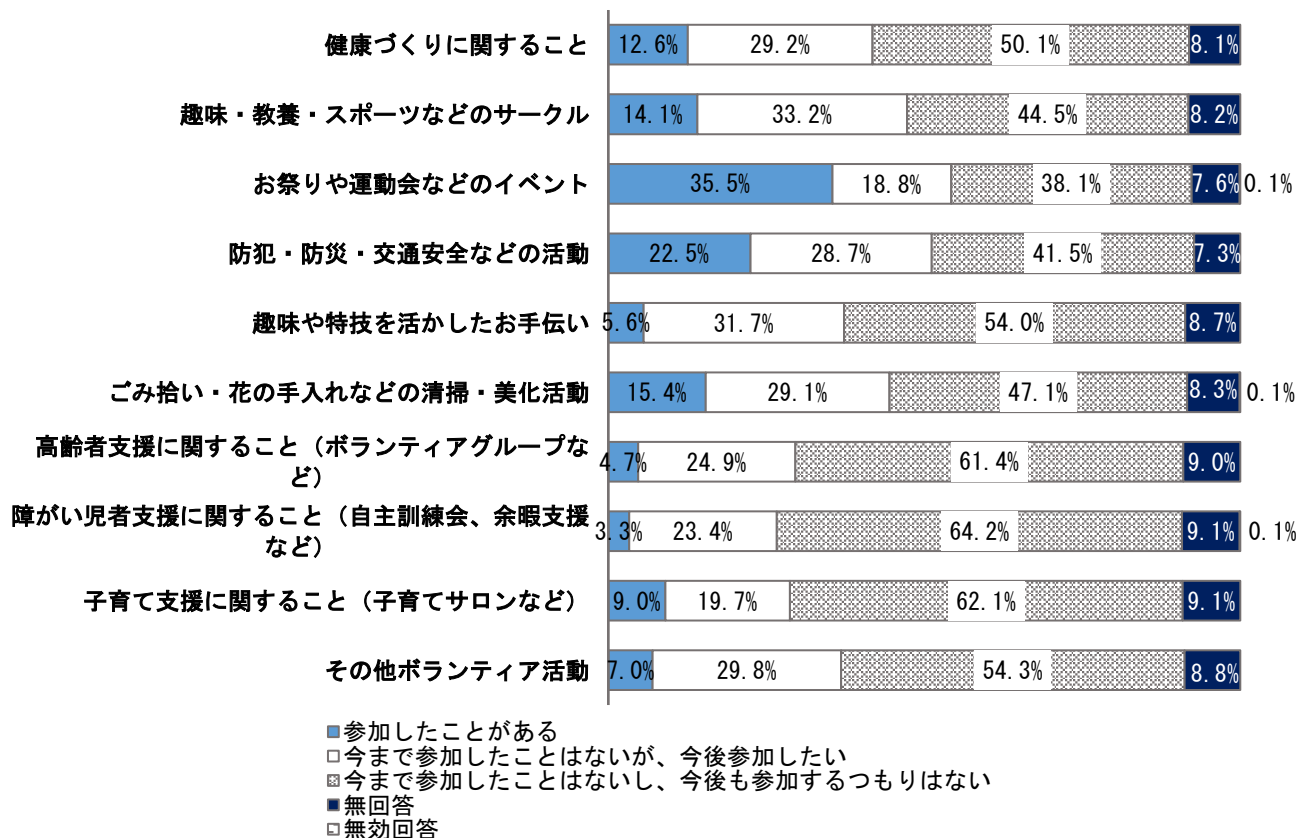
20歳代女性の8割は隣近所への関心が最も必要と考えている。70歳以上の男女では、隣近所への関心の次に自治会町内会活動への参加が必要と考えている割合が多い。



問13 地域活動への参加経験と今後の参加意向

【n=1,673】

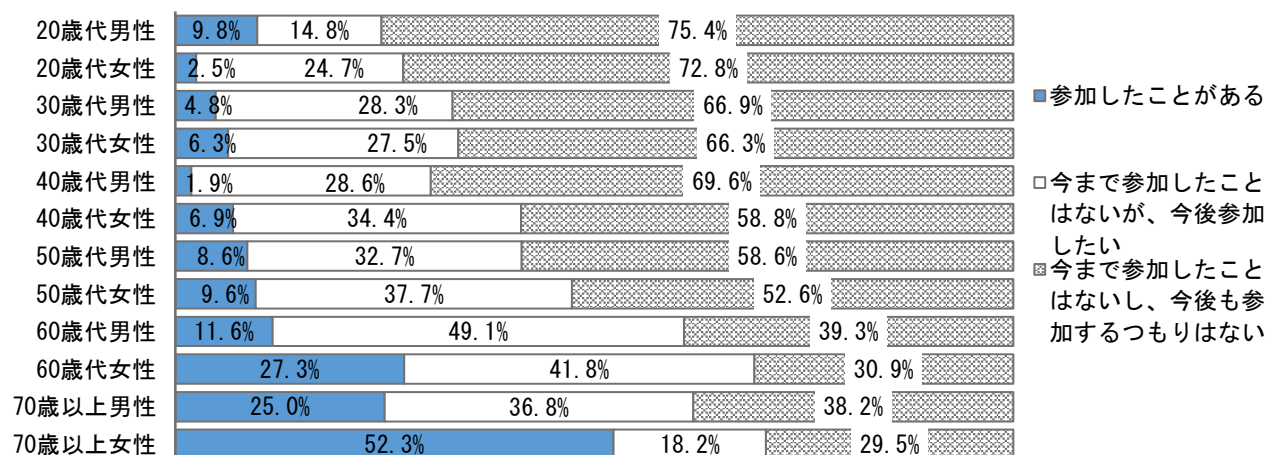
参加経験では「お祭りや運動会などのイベント」と回答した割合が最も多く、次いで「防犯・防災・交通安全活動」が多い。今後の参加意向は「趣味・教養・スポーツなどのサークル」と回答した割合が最も多く、次いで「趣味や特技を活かしたお手伝い」が多い。



問13×問1×問2 性年代別地域活動への参加経験と今後の参加意向

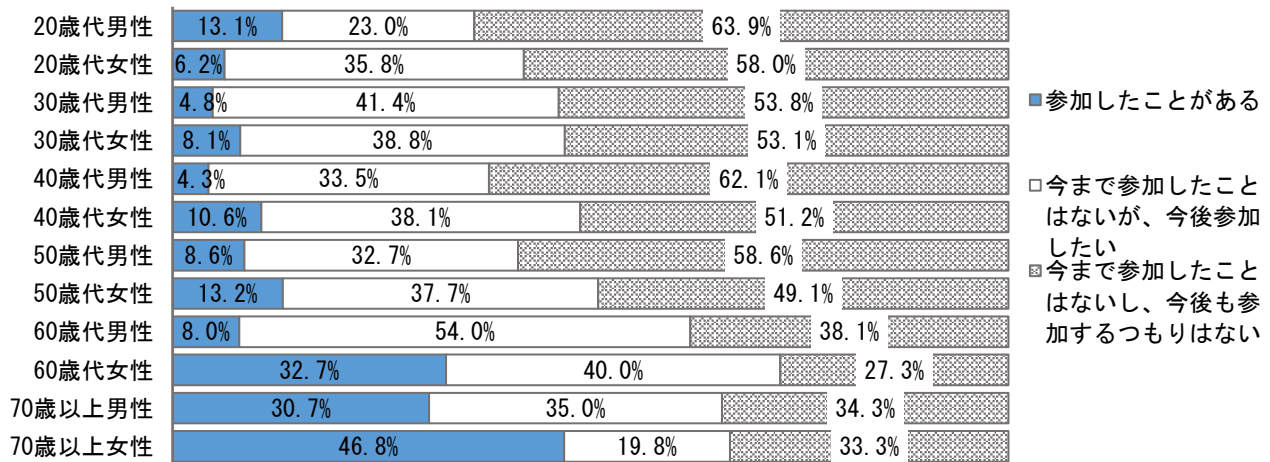
【A 健康づくりに関すること n=1,534】 P<0.05

参加経験では70歳代女性の割合が最も多く、今後の参加意向では60歳代男性が最も多い。



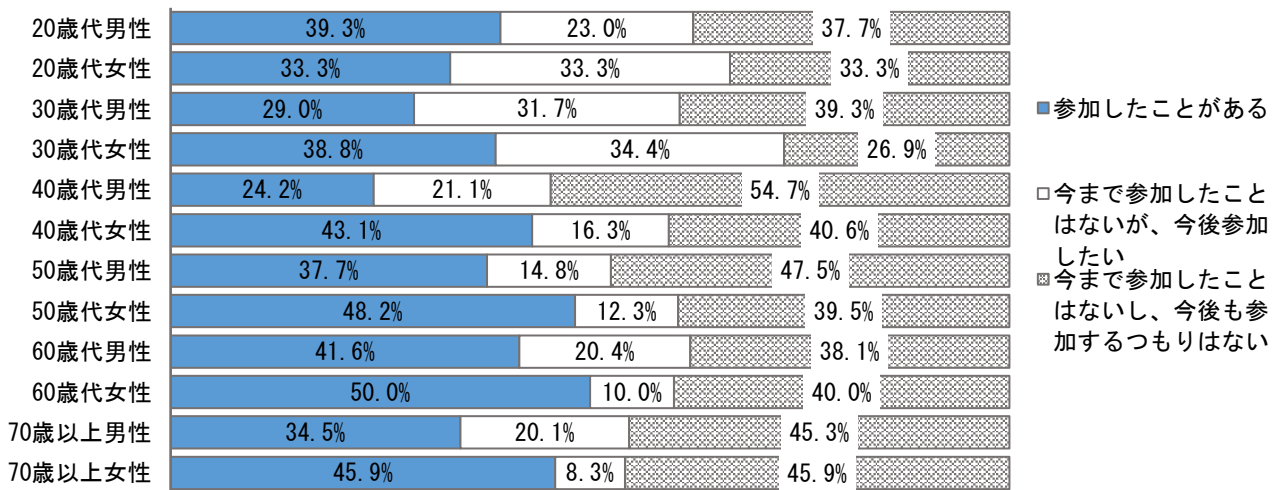
【B 趣味・教養・スポーツなどのサークル n=1,530】 P<0.05

参加経験では 70 歳代女性の割合が最も多く、今後の参加意向では 60 歳代男性が最も多い。



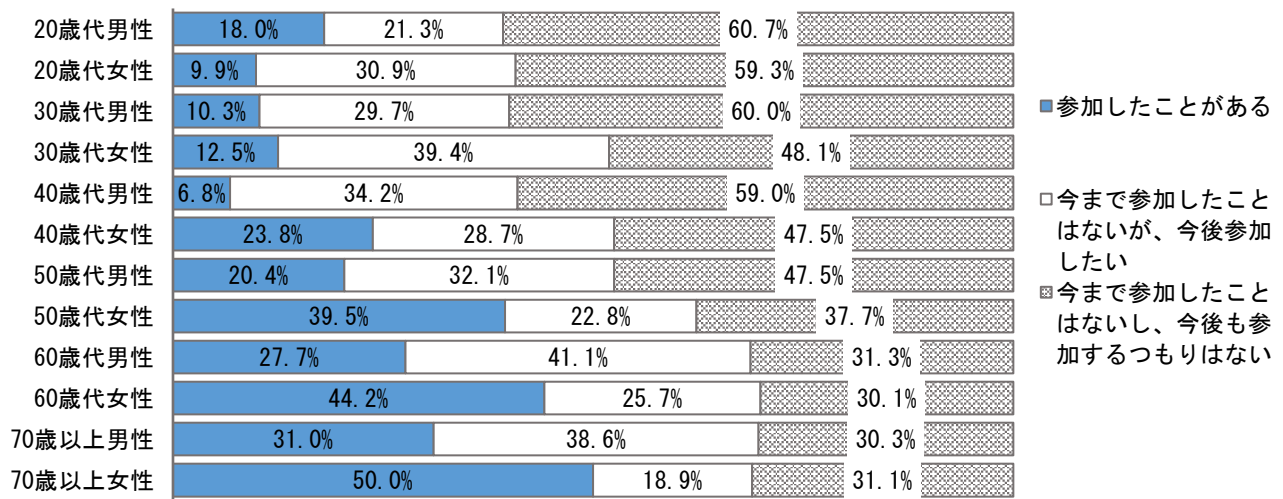
【C お祭りや運動会などのイベント n=1,539】 P<0.05

参加経験では 60 歳代女性の割合が最も多く、今後の参加意向では 30 歳代女性が最も多い。



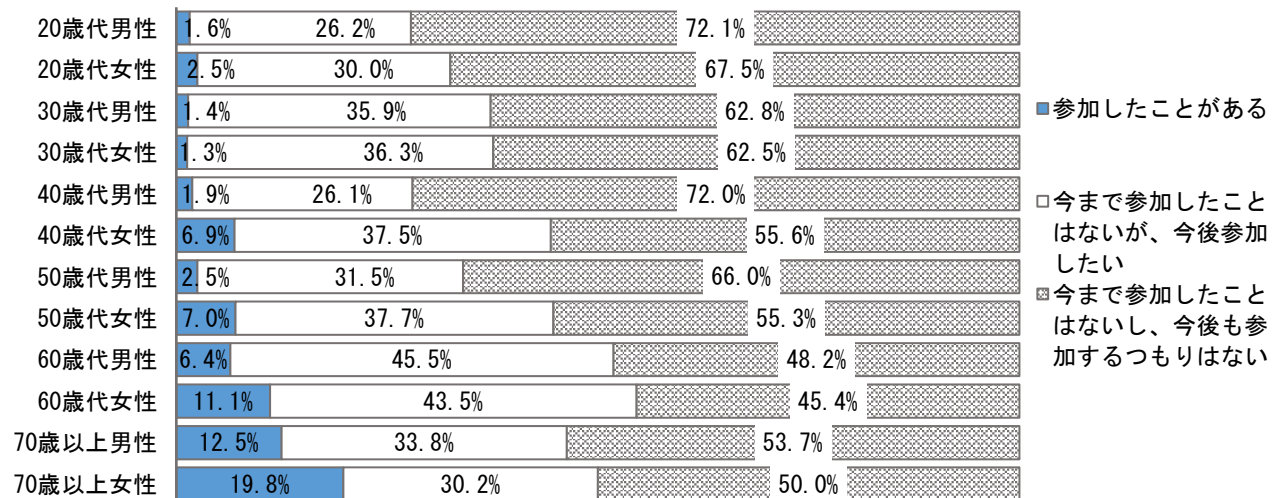
【D 防犯・防災・交通安全などの活動 n=1,546】 P<0.05

参加経験では 70 歳代女性の割合が最も多く、今後の参加意向では 60 歳代男性が最も多い。



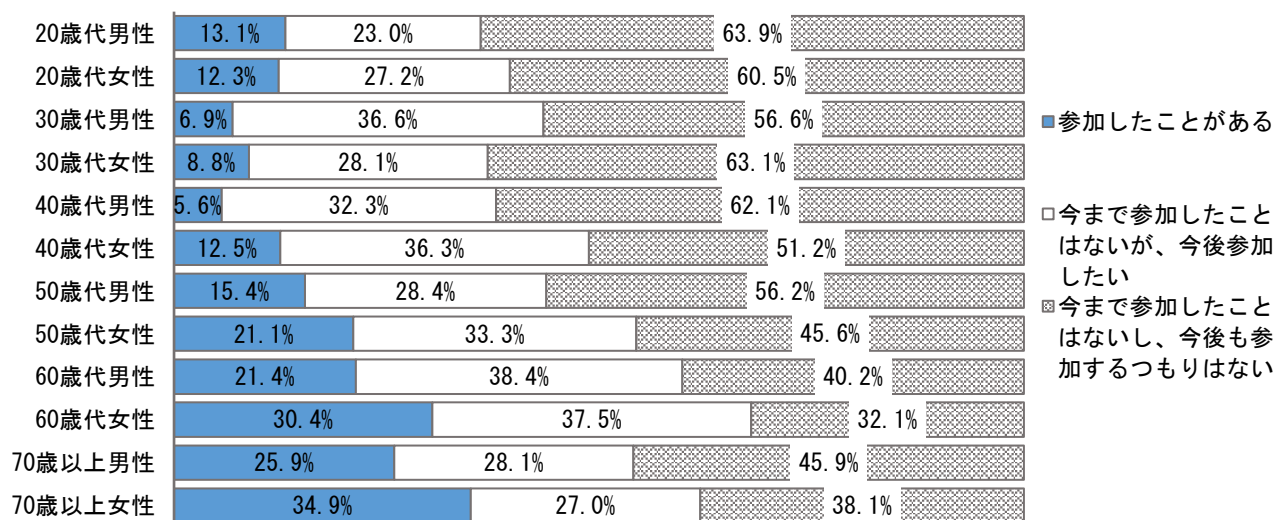
【E 趣味や特技を活かしたお手伝い n=1,523】 P<0.05

参加経験では 70 歳代女性の割合が最も多く、今後の参加意向では 60 歳代男性が最も多い。



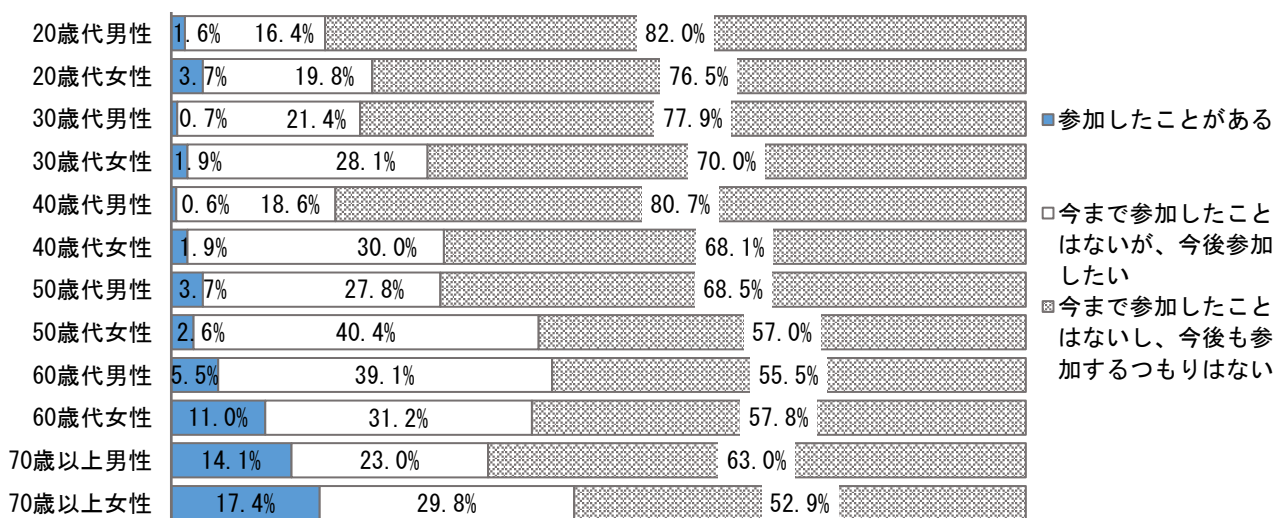
【F ごみ拾い・花の手入れなどの清掃・美化活動 n=1,529】 P<0.05

参加経験では 70 歳代女性の割合が最も多く、今後の参加意向では 60 歳代男性が最も多い。



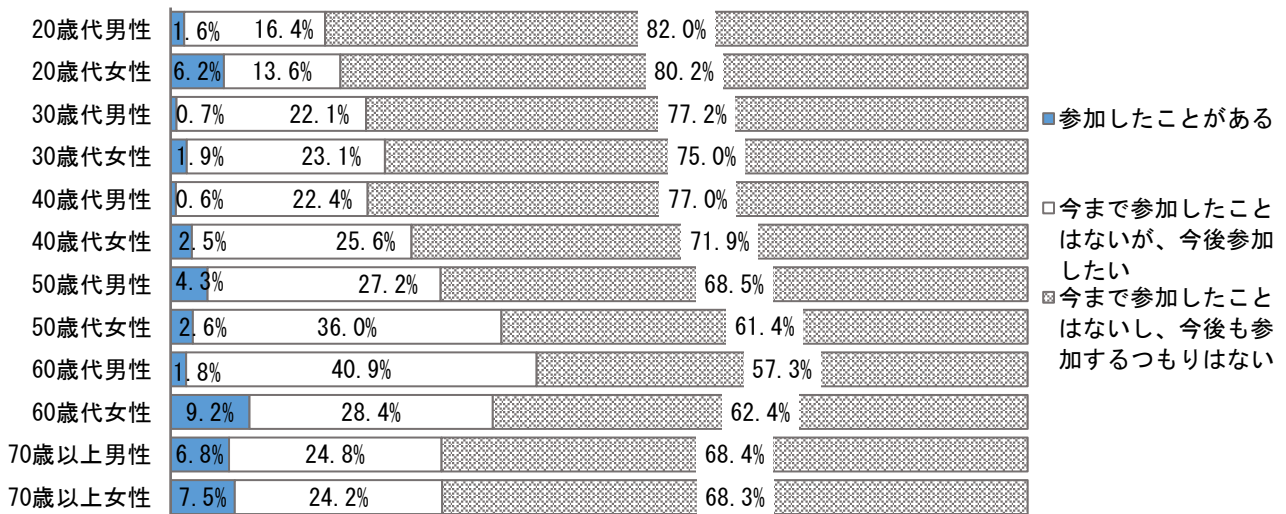
【G 高齢者支援に関すること（ボランティアグループなど） n=1,519】 P<0.05

参加経験では 70 歳代女性の割合が最も多く、今後の参加意向では 50 歳代女性が最も多い。



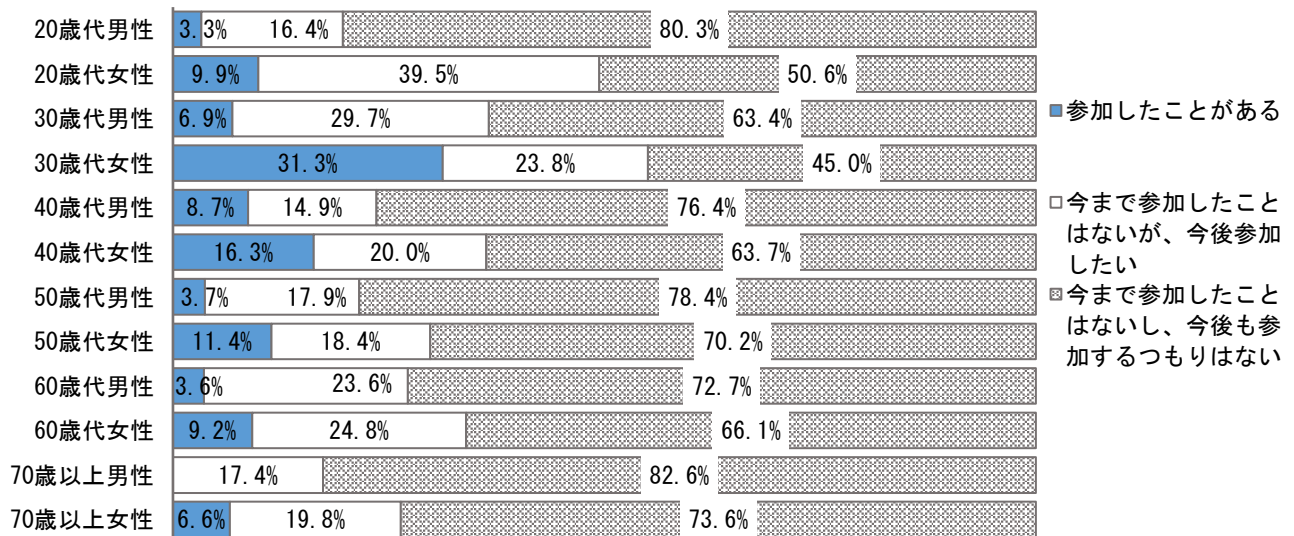
【H 障がい児者支援に関すること（自主訓練会、余暇支援など） n=1,516】 P<0.05

参加経験では60歳代女性の割合が最も多く、今後の参加意向では60歳代男性が最も多い。



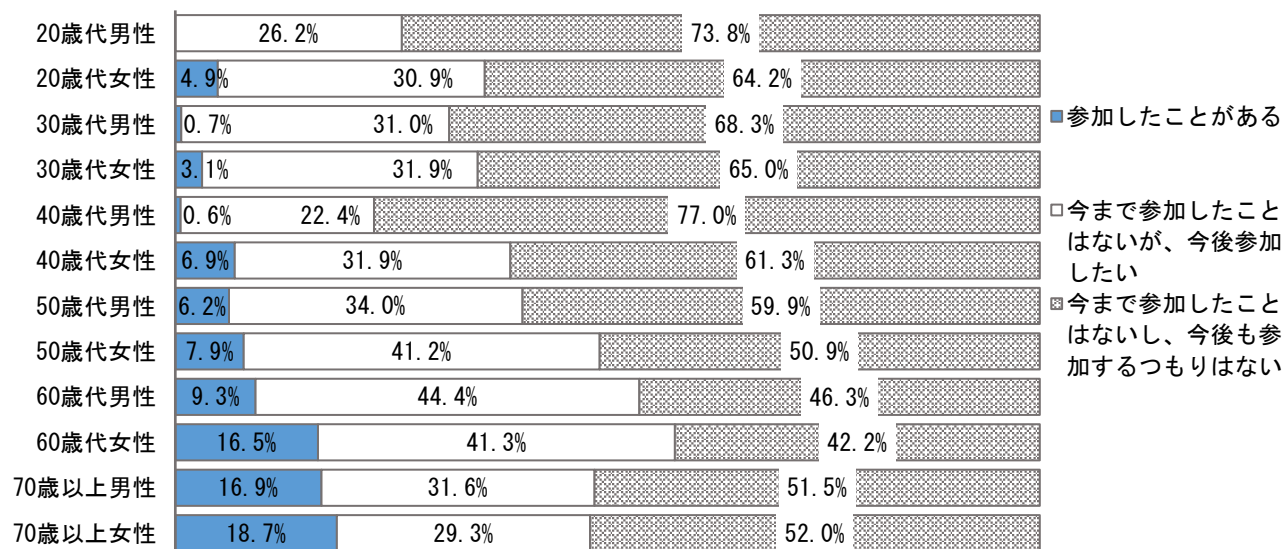
【I 子育て支援に関すること（子育てサロンなど） n=1,516】 P<0.05

参加経験では30歳代女性の割合が最も多く、今後の参加意向では20歳代女性が最も多い。



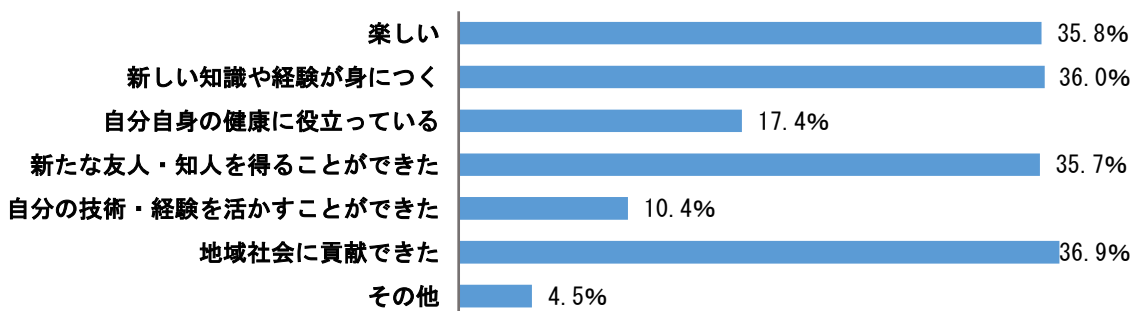
【J その他ボランティア活動 n=1,520】 P<0.05

参加経験では70歳代女性の割合が最も多く、今後の参加意向では60歳代男性が最も多い。



問14 地域活動に参加して良かったと思うこと (複数回答)
 ※問13A~Jのいずれか1つ以上に「参加したことがある」と回答した人 【n=823】

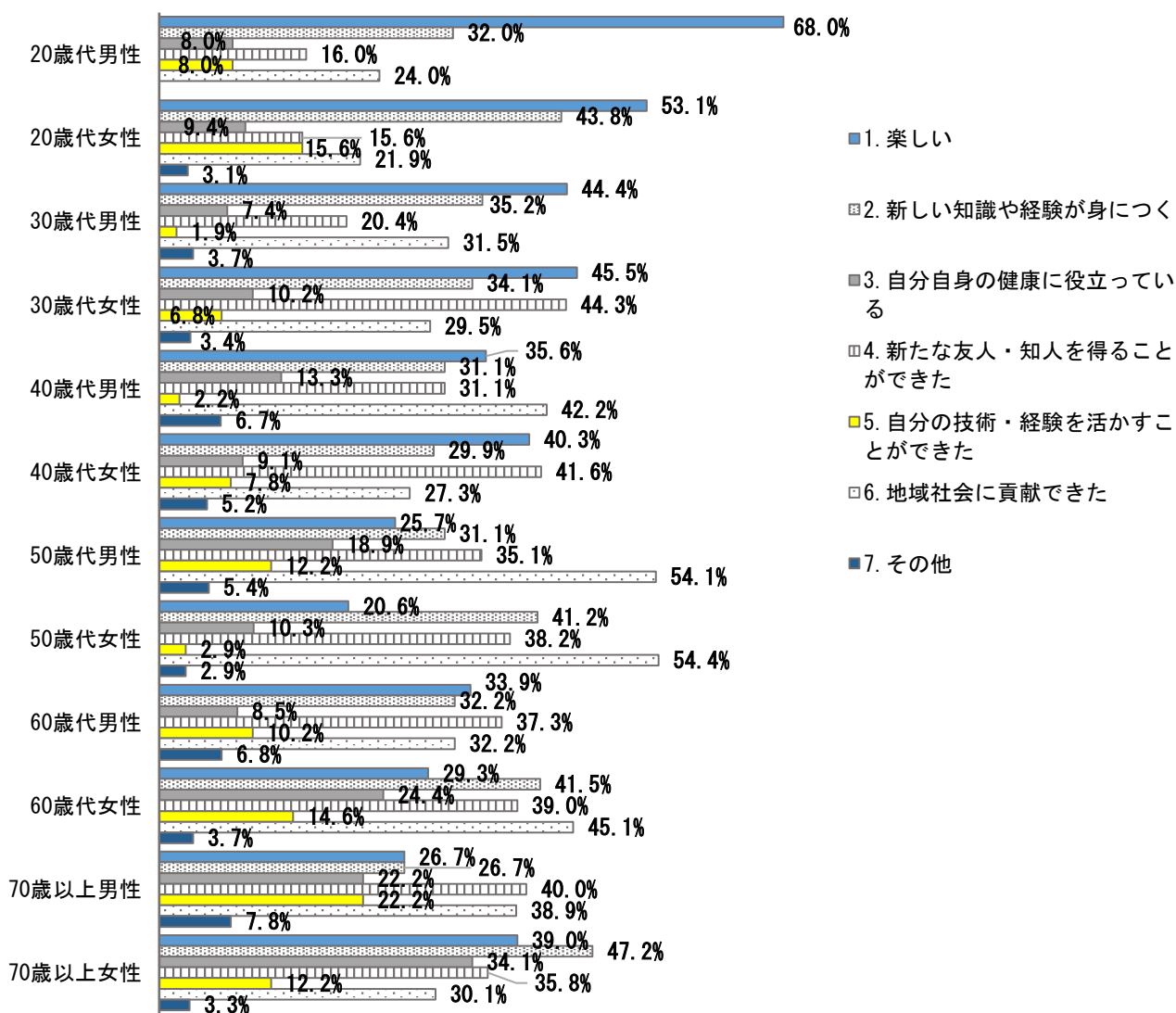
「地域社会への貢献」が最も多く、次いで「新しい知識や経験が身につく」「楽しい」「新たな友人・知人を得る」の順に多い。



問1 4×問1×問2 性年代別地域活動に参加して良かったと思うこと (複数回答)

※問13A～Jのいずれか1つ以上に「参加したことがある」と回答した人 【n=817】

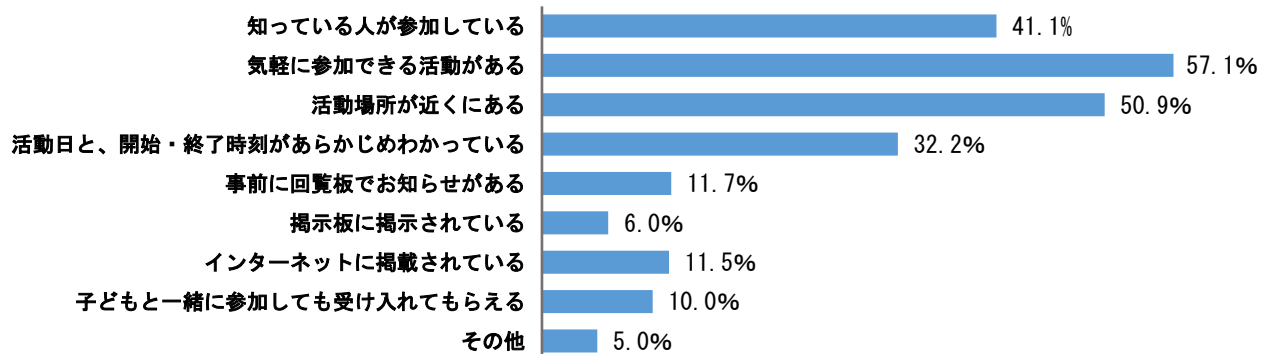
20～30歳代男女、40歳代女性では「楽しい」、40歳代男性と50歳代男女及び60歳代女性では「地域社会への貢献」、60歳代と70歳代男性では「新たな友人・知人を得る」、70歳代女性では「新しい知識や経験が身につく」が最も多い。



問15 地域活動に参加しやすい条件

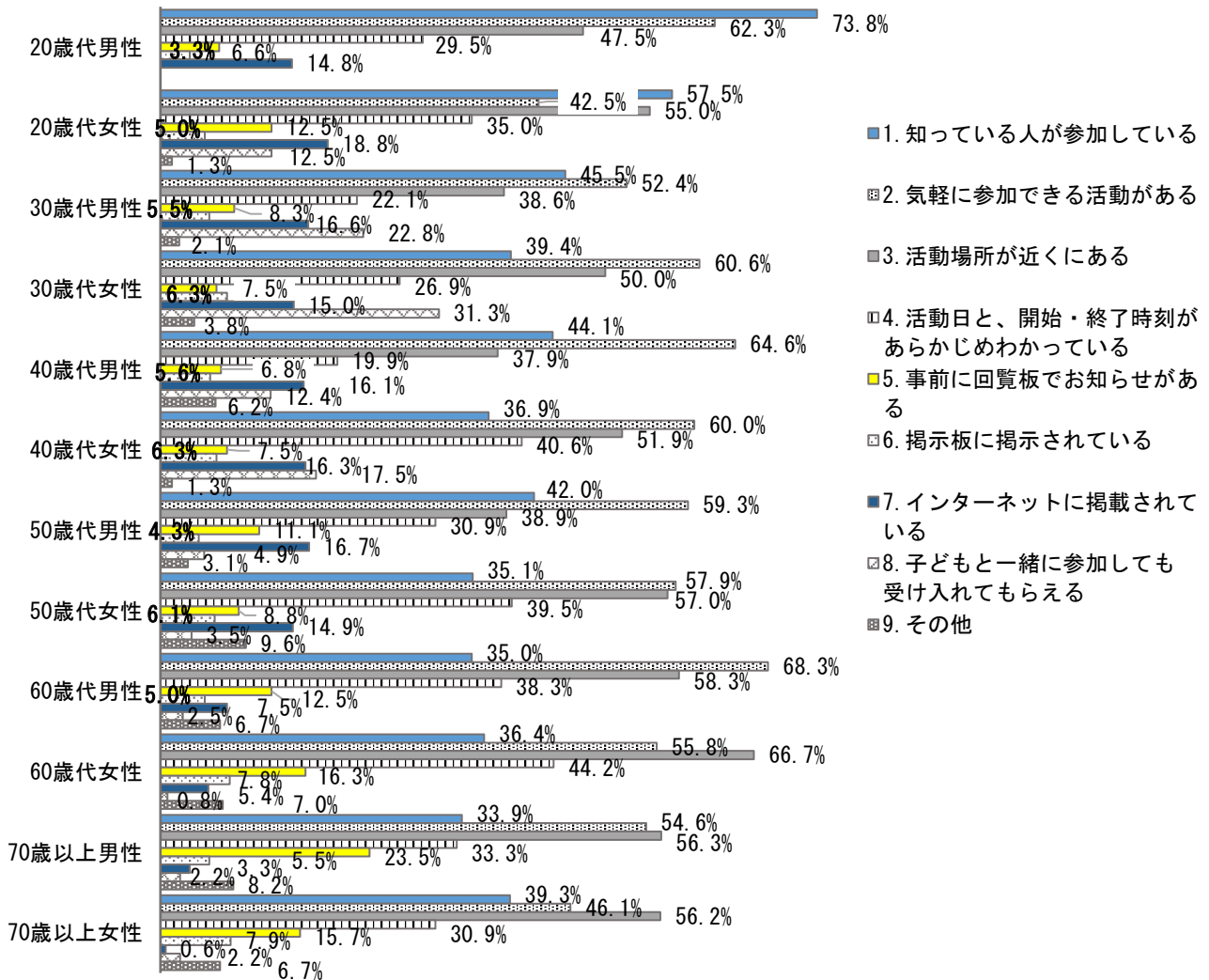
【n=1,660】

「気軽に参加できる活動」が「近所」で行われていると参加しやすいと回答した割合が多い。



問15×問1×問2 性年代別どのような状況であれば地域活動に参加しやすいか
 (複数回答) 【n=1,653】

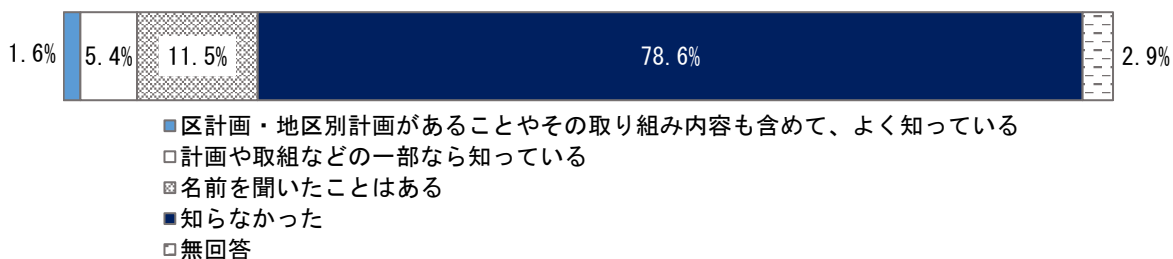
それぞれ 20 歳代男女では「知っている人が参加している」、30～50 歳男女と 60 歳代男性では「気軽に参加できる活動がある」、60 歳代女性と 70 歳代男女では「活動場所が近くにある」と回答した割合が多い。



問16 地域福祉保健計画「ひっとプラン港北」の認知

【n=1,673】

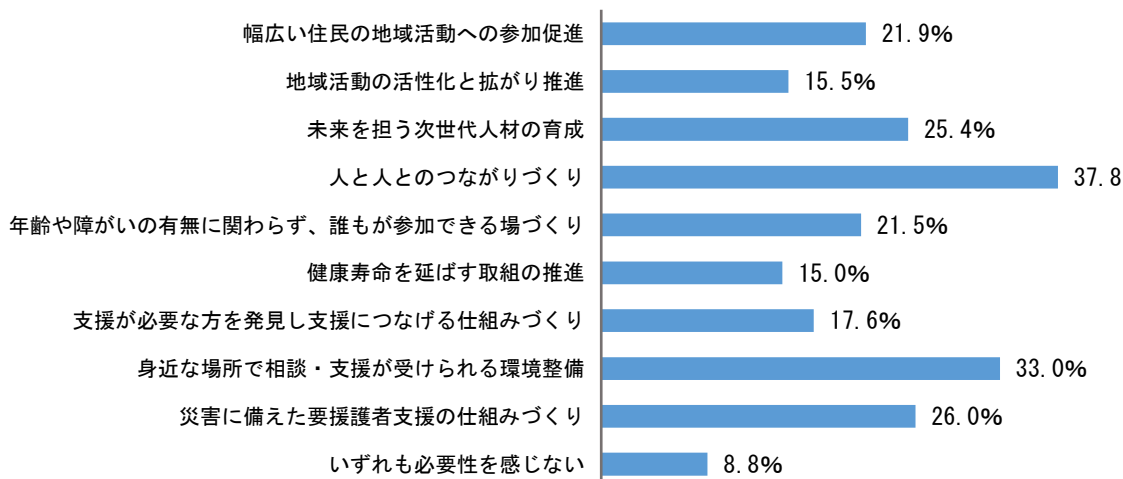
「名前を聞いたことがある」を含めて、地域福祉保健計画を認知している割合は2割に満たない。



問17 港北区で特に必要と考える（ひっとプランの）取組

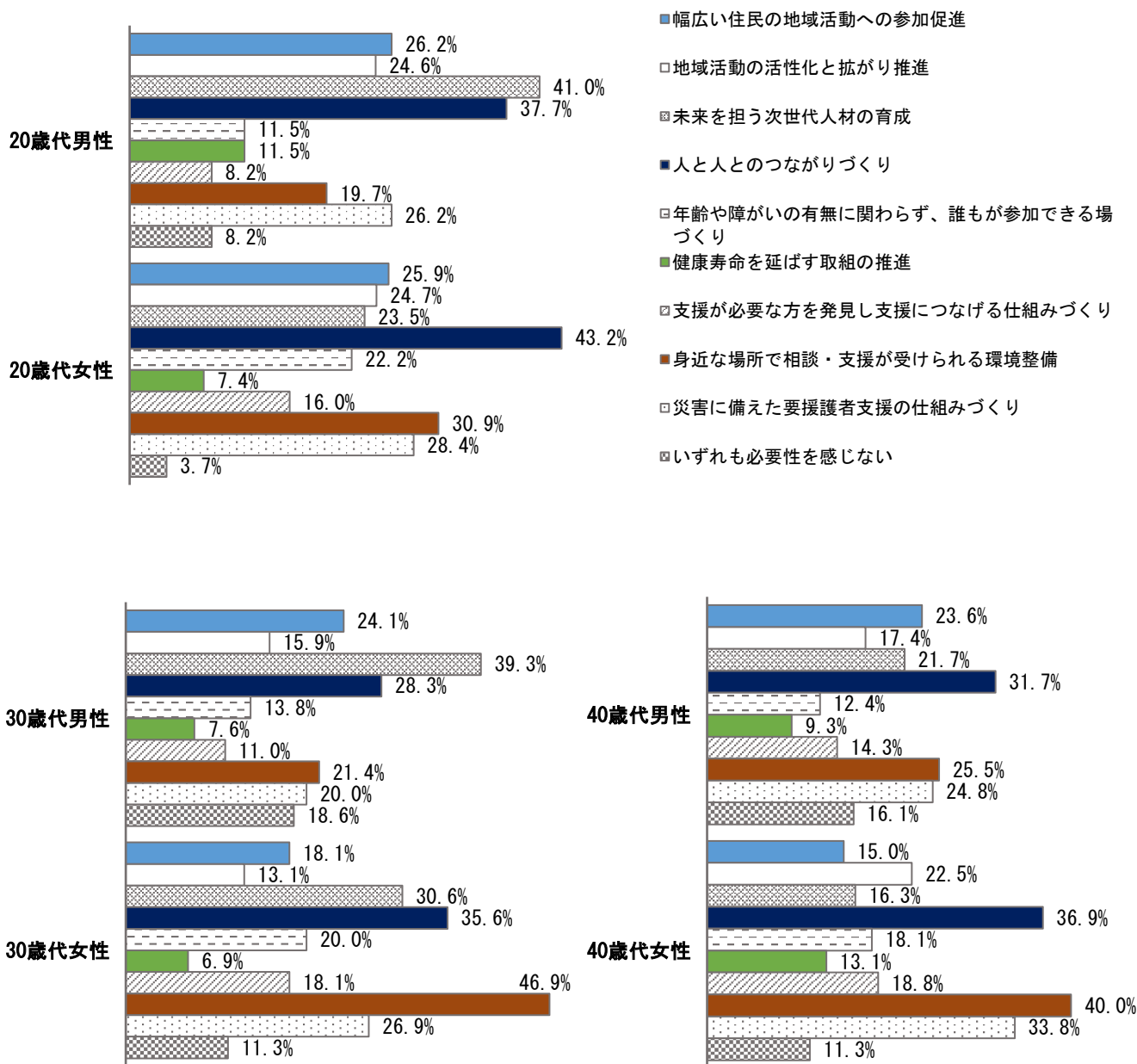
【n=1,668】

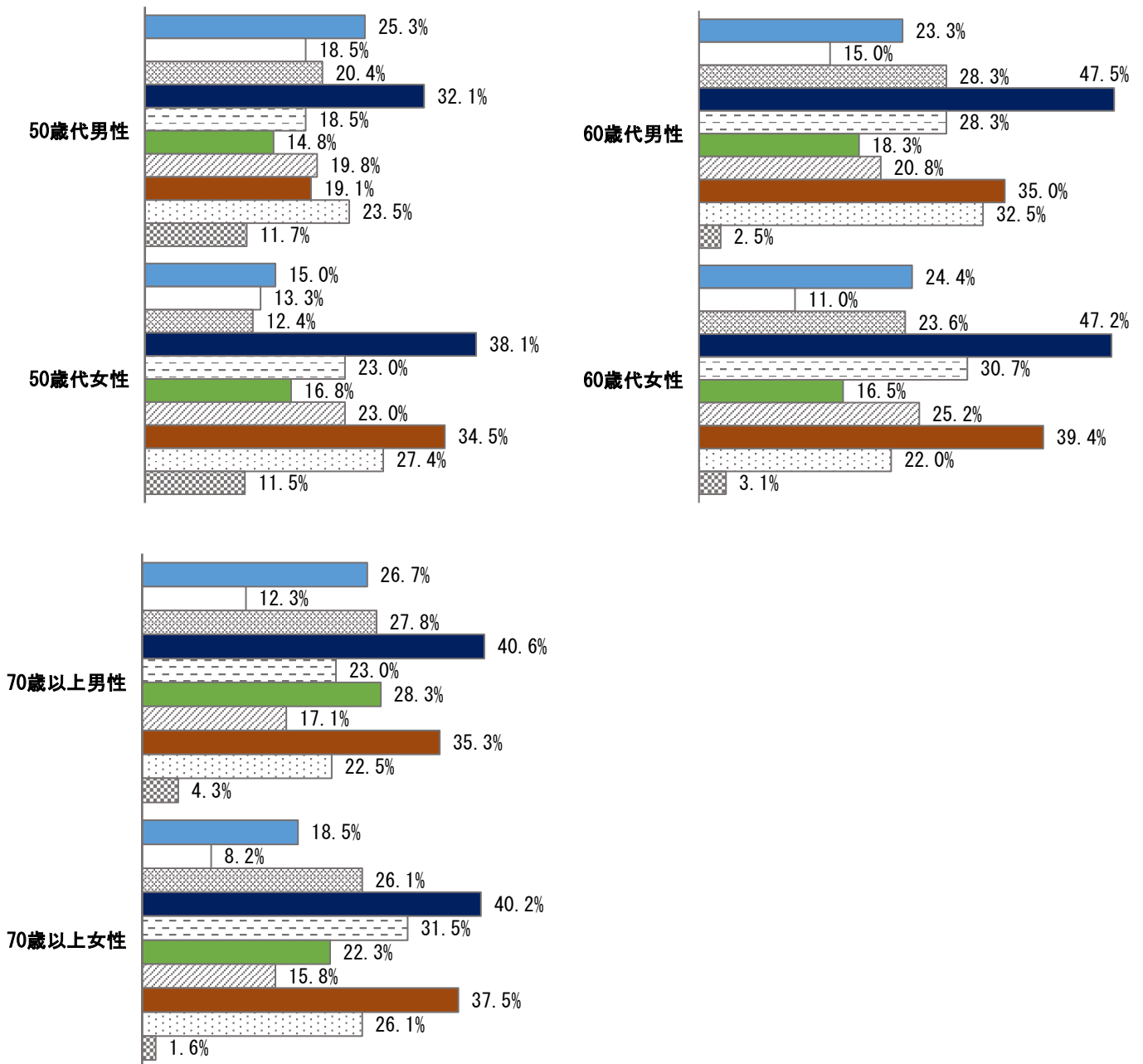
「人と人とのつながりづくり」「身近な場所で相談・支援が受けられる環境整備」が必要と回答した割合がそれぞれ3割を超えている。



問17×問1×問2 性年代別港北区で特に必要と考える（ひっとプランの）取組
【n=1,661】

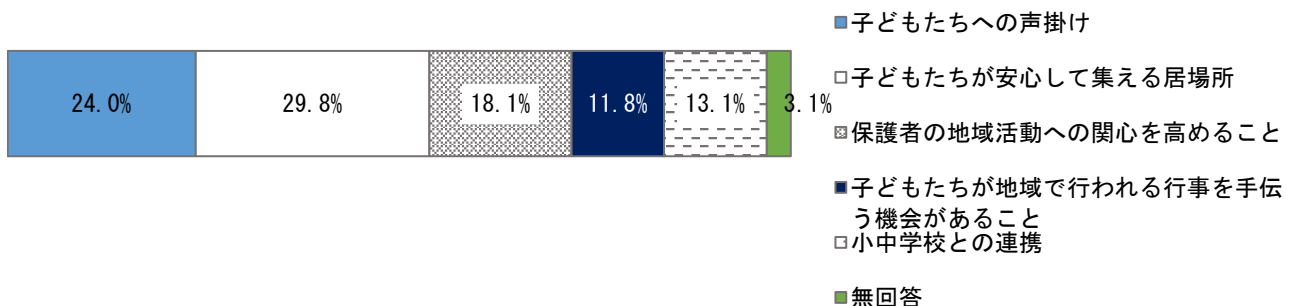
20歳代・30歳代男性では「未来を担う次世代人材の育成」、30歳代・40歳代女性では「身近な場所で相談・支援が受けられる環境整備」、それ以外では「人と人とのつながりづくり」が特に必要と回答した割合が多い。





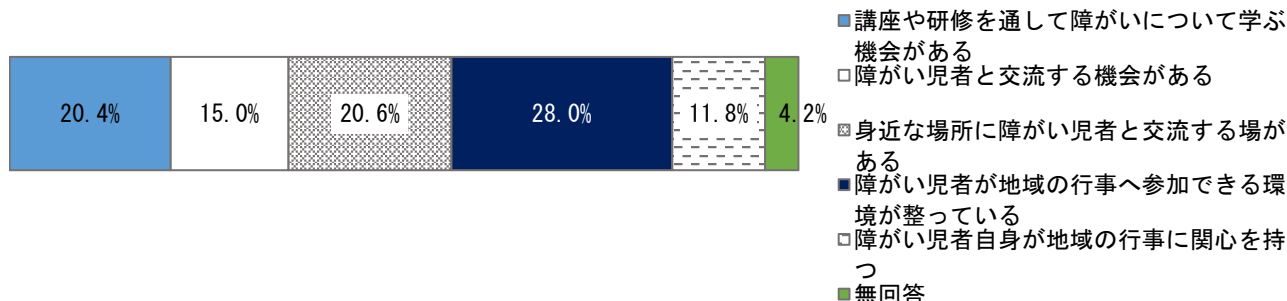
問18 地域ぐるみで子どもを見守るために最も必要と思うこと 【n=1,665】

「子どもたちが安心して集える居場所」があること、と回答した割合が最も多く、次いで「子どもたちへの声かけ」が多い。



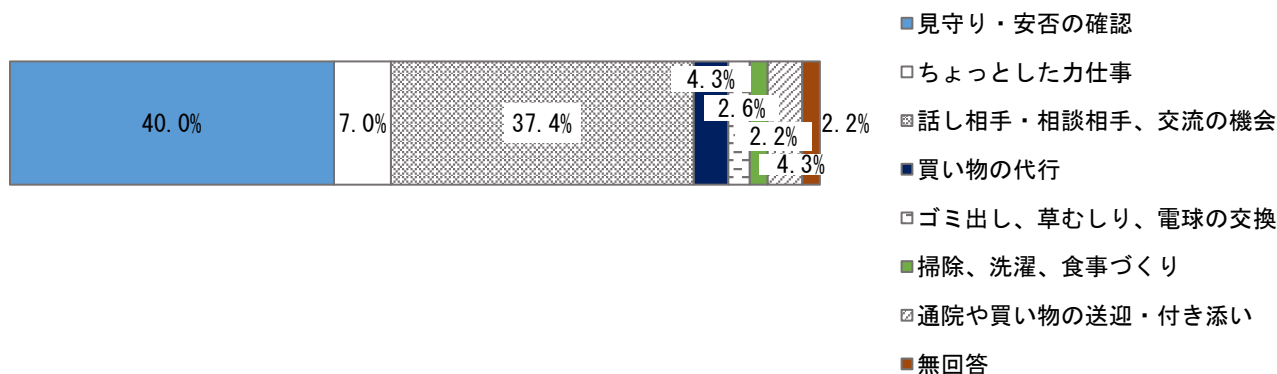
問19 障がいの有無に関わらず住民が主体的に参加できるまちをつくるために最も必要と思うこと 【n=1,671】

「地域の行事へ参加できる環境が整っている」と回答した割合が最も多く、次いで「身近な場所に障がい児者と交流する場がある」が多い。



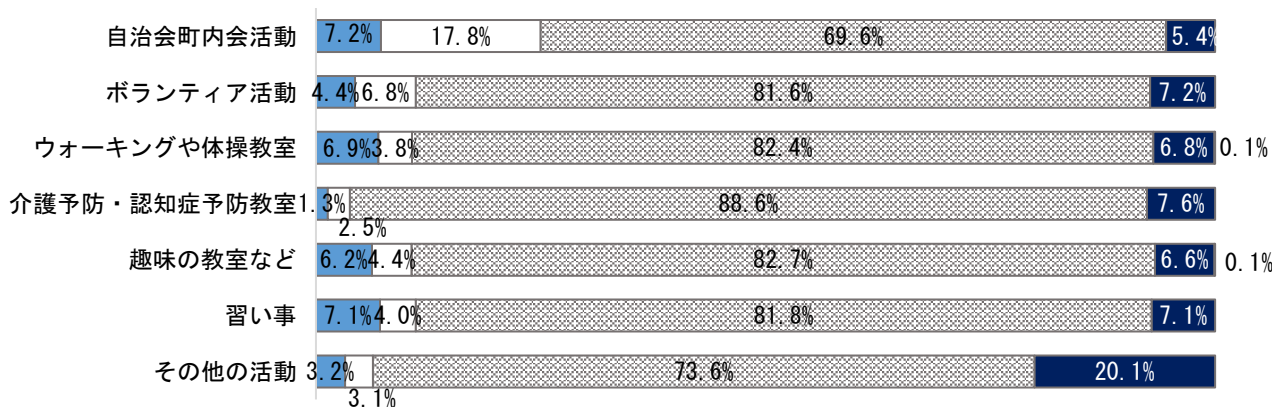
問20 高齢者への日常的な支援として、最も必要と思うこと 【n=1,662】

「見守り・安否確認」と回答した割合が最も多く、次いで「話し相手・相談相手、交流の機会」が多い。



問21 「健康づくり」を意識した活動参加 【n=1,662】

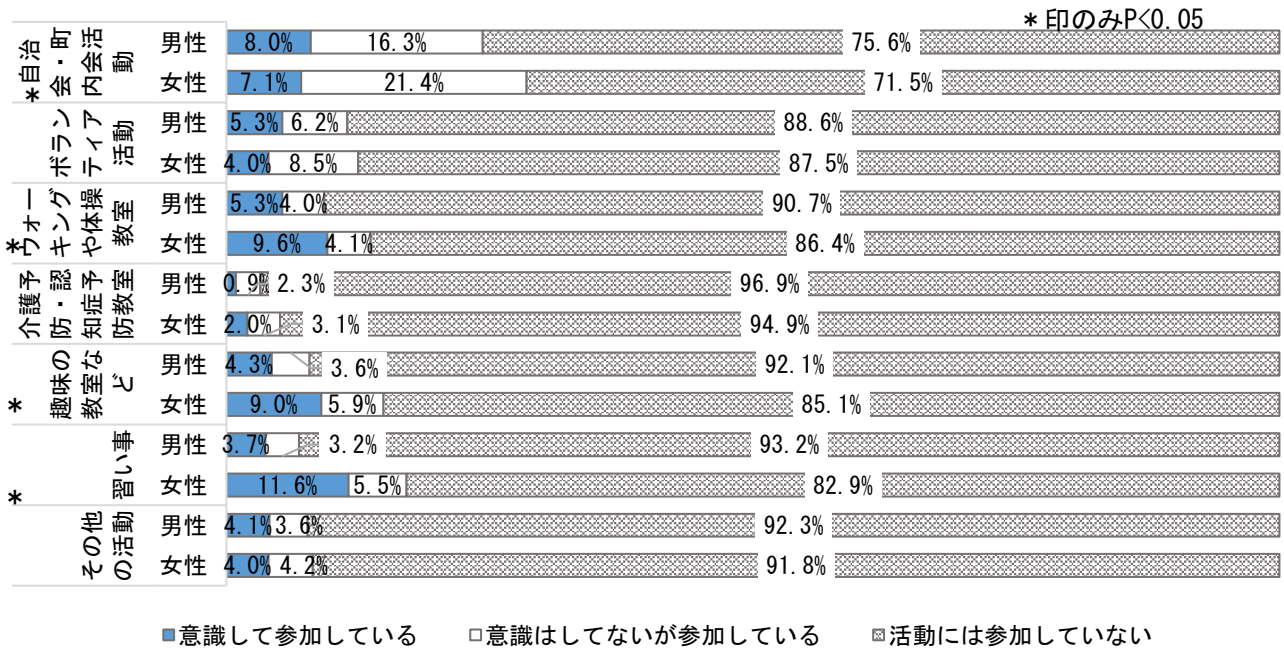
健康づくりを「意識して参加している」「意識はしていないが参加している」と回答した割合は、ともに自治会町内会活動が最も多い。



■意識して参加している □意識はしていないが参加している ▨活動には参加していない ■（無回答） □無効回答

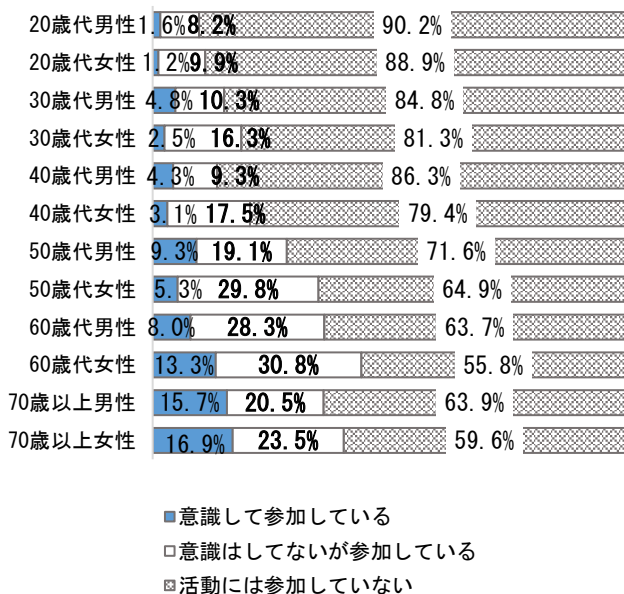
問21×問1×問2 性年代別「健康づくり」を意識した活動参加 【n=1,662】

各活動において、「意識して参加している」「意識していないが参加している」と回答した割合は、女性の方が多く、「意識して参加している」と回答した割合は「習い事」「ウォーキングや体操教室」「趣味の教室など」の順に高い。活動別にみると、自治会町内会活動は男女とも「意識して参加している」「意識していないが参加している」と回答した割合が多い。



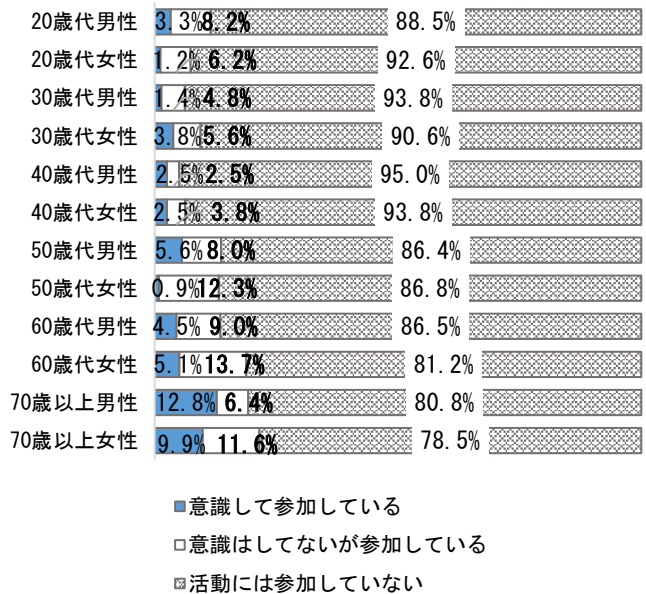
A 自治会町内会活動 【n=1,579】 P<0.05

「意識して参加」と回答した割合は70歳代女性、「意識せずに参加」と回答した割合は60歳代女性が最も多い。



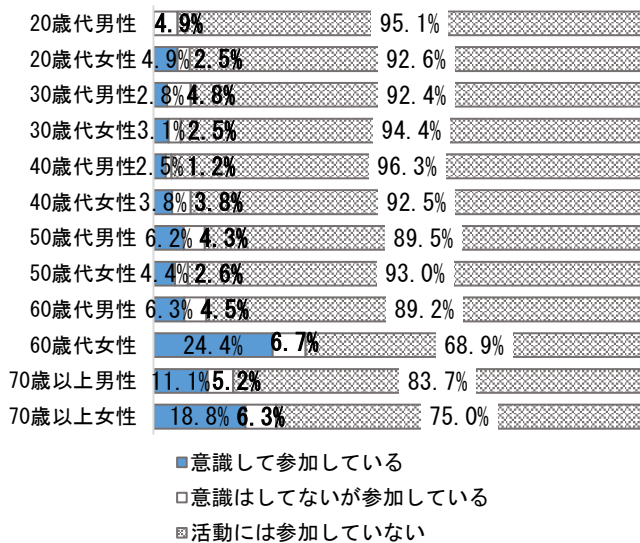
B ボランティア活動 【n=1,549】 P<0.05

「意識して参加」と回答した割合は70歳代以上男性、「意識せずに参加」と回答した割合は60歳代女性が最も多い。



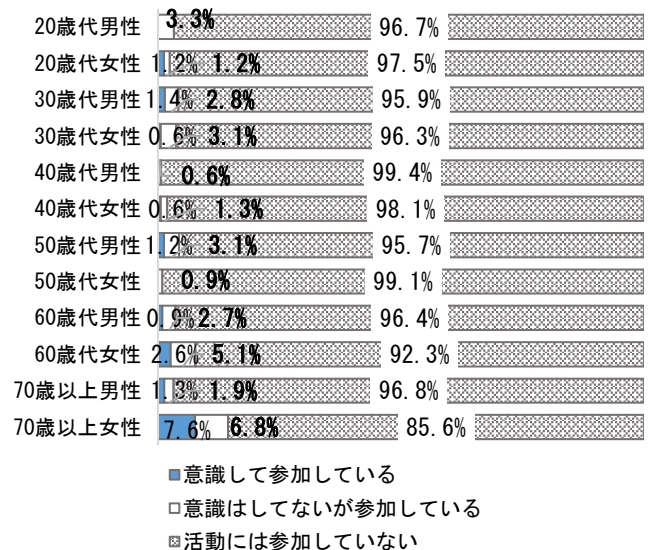
C ウォーキングや体操教室 【N=1,555】 P<0.05

「意識して参加」「意識せずに参加」と回答した割合はともに60歳代女性が最も多い。



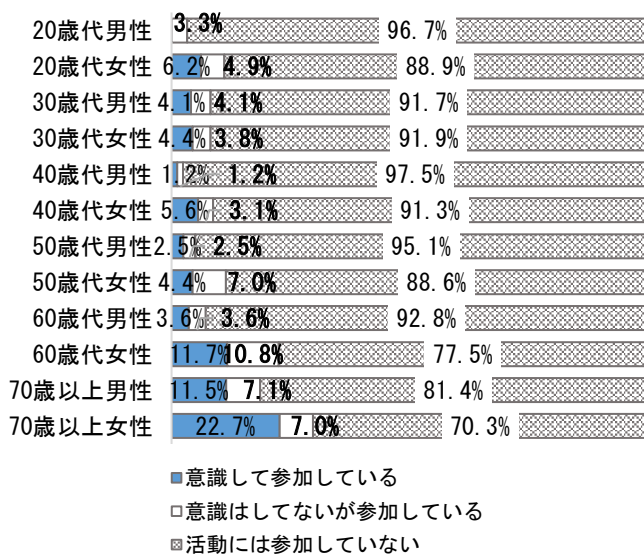
D 介護予防・認知症予防【n=1,544】 P<0.05

「意識して参加」「意識せずに参加」と回答した割合はともに70歳代以上女性が最も多い。



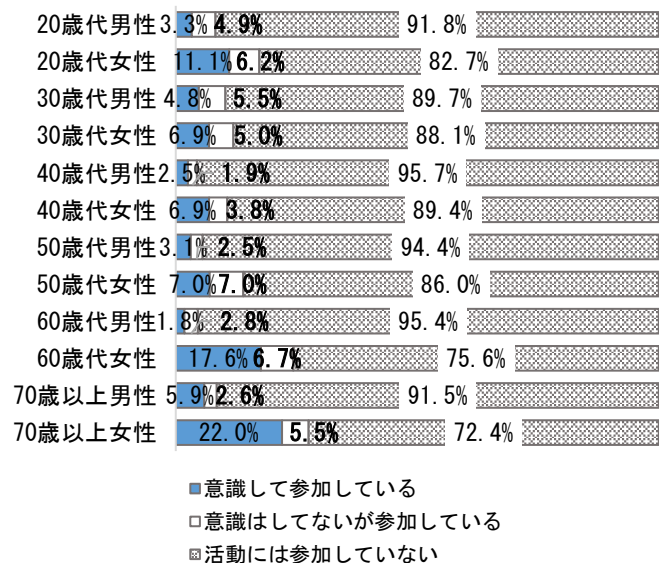
E 趣味の教室など 【n=1,559】 P<0.05

「意識して参加」と回答した割合は70歳代以上女性、「意識せずに参加」と回答した割合は70歳代男性が最も多い。



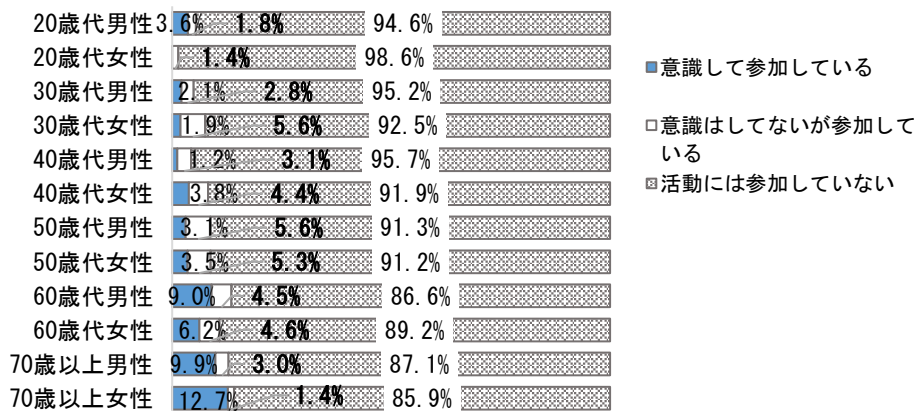
F 習い事 【n=1,552】 P<0.05

「意識して参加」と回答した割合は70歳代以上女性、「意識せずに参加」と回答した割合は50歳代女性が最も多い。



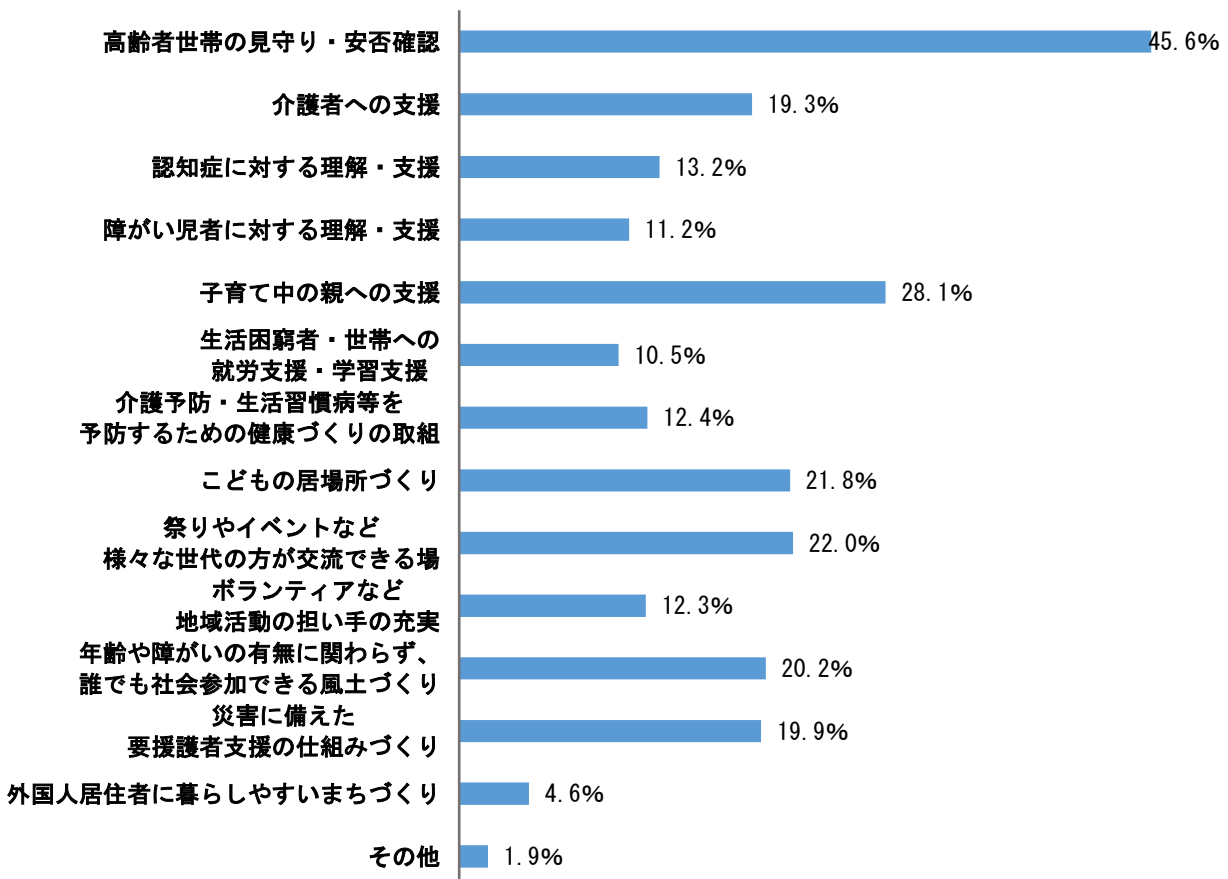
G その他の活動 【n=1,334】

「意識して参加」と回答した割合は70歳代以上女性、「意識せずに参加」と回答した割合は30歳代女性、50歳代男性が最も多い。



問22 住みやすい地域になるために、特に重要な福祉保健の取組（複数回答）【n=1,666】

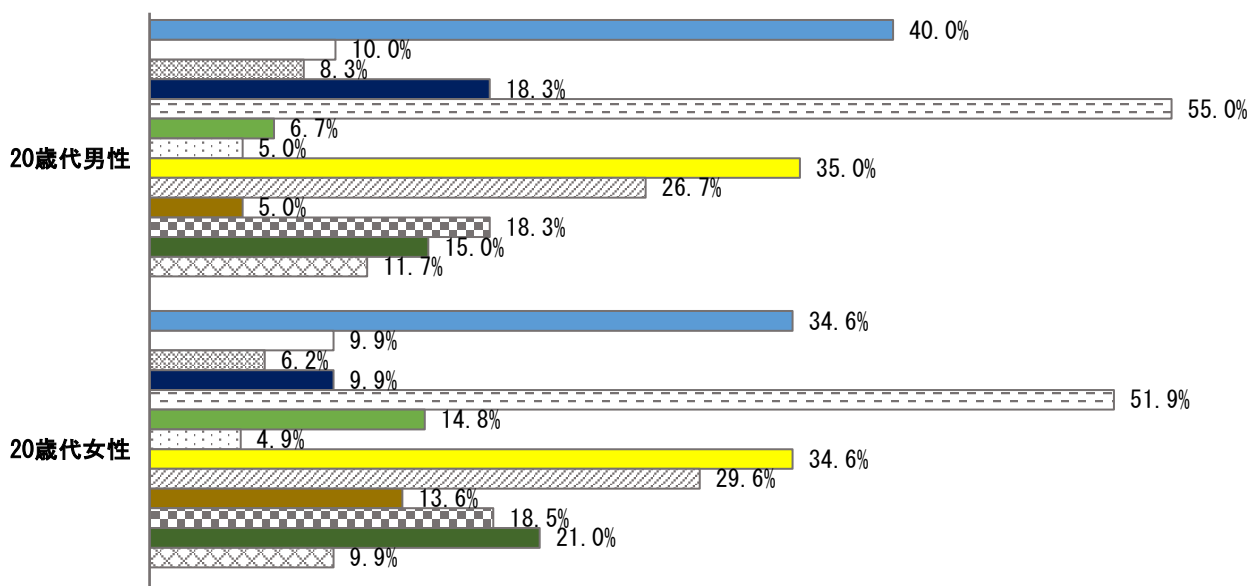
全体的には「高齢者世帯の見守り・安否確認」と回答した割合が最も多く、次いで「子育て中の親への支援」が多い。性年代別でみると20～30歳代の男女では「子育て中の親への支援」と回答した割合が最も多く、40歳代以上の男女では「高齢者世帯の見守り・安否確認」と回答した割合が多い。

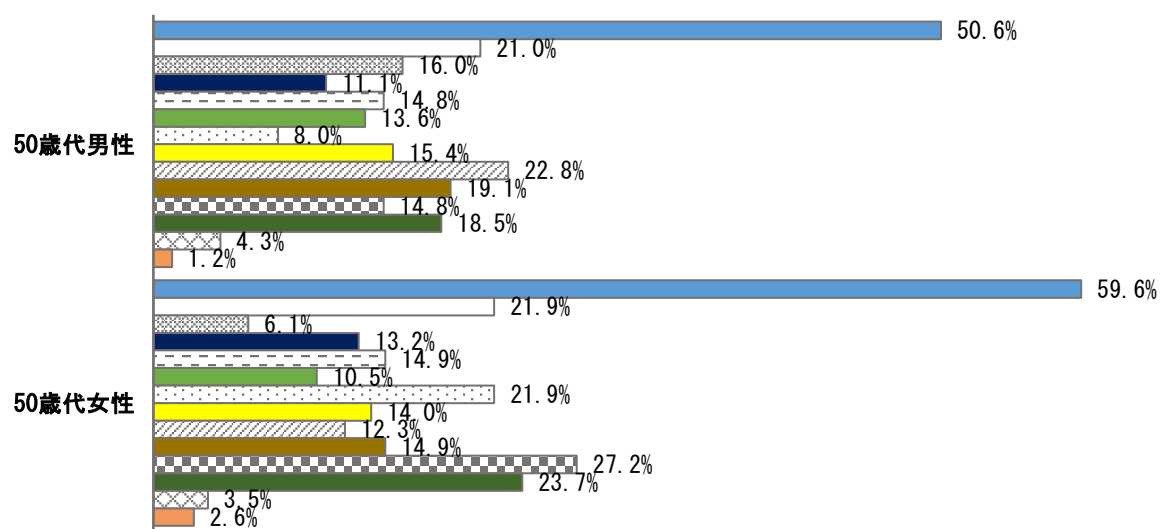
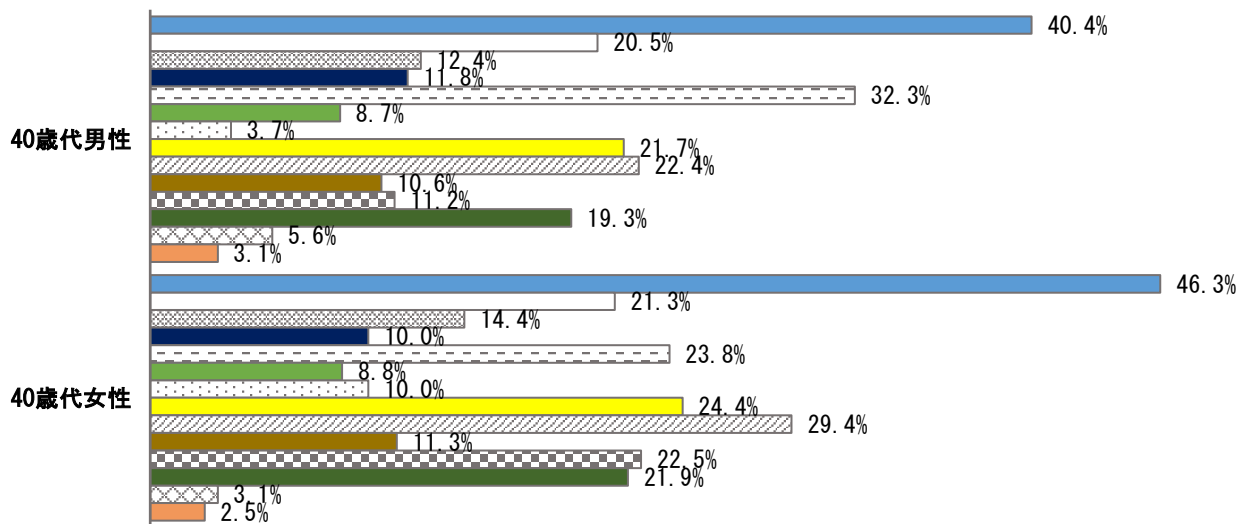
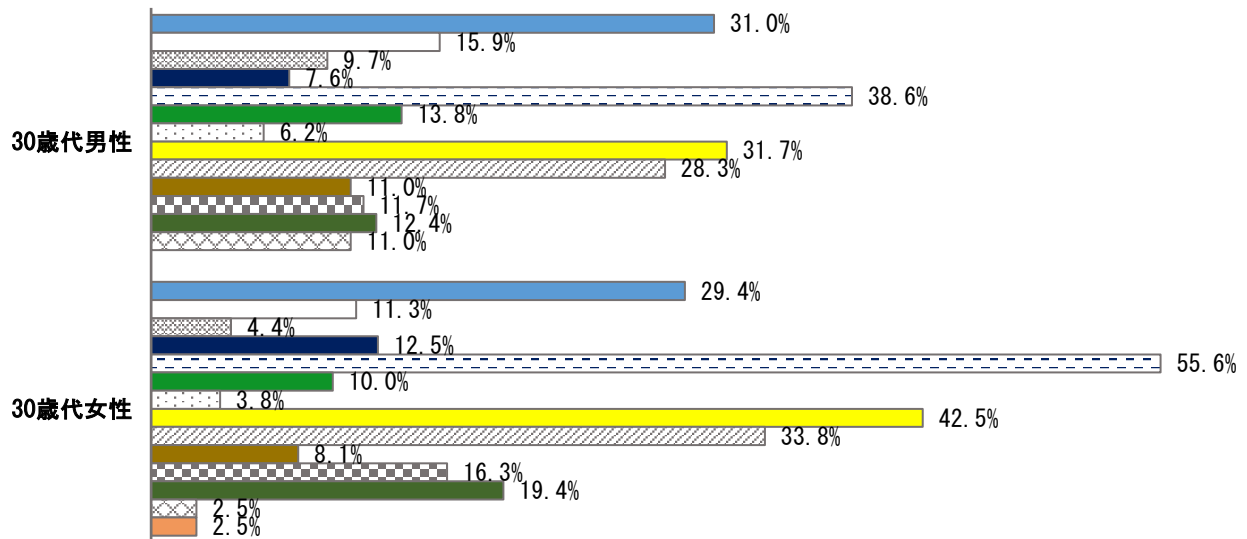


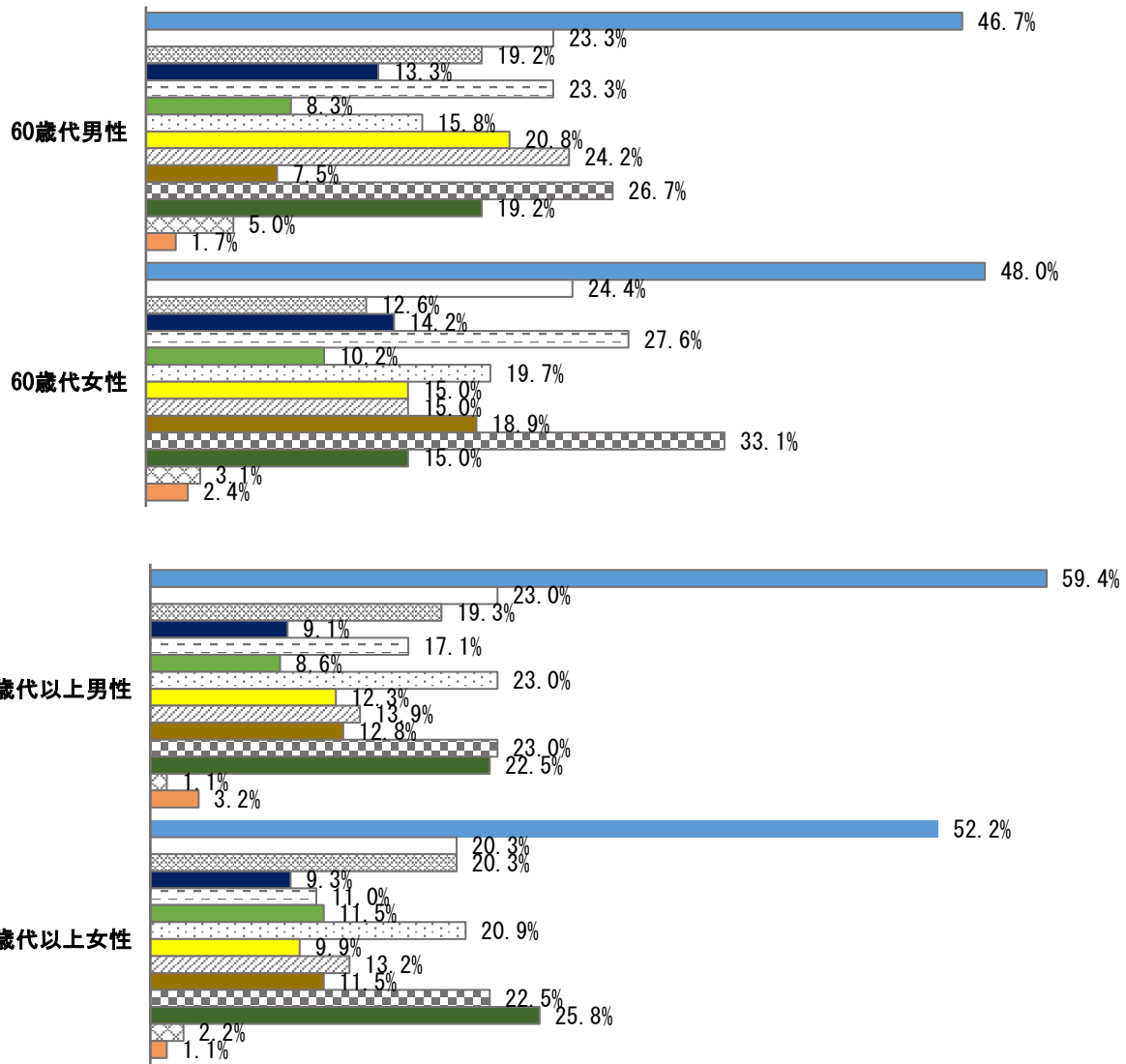
問22×問1×問2 性年代別住みやすい地域になるために、特に重要な福祉保健の取組 (複数回答) 【n=1,659】

性年代別でみると20～30歳代の男女では「子育て中の親への支援」「子どもの居場所づくり」、40歳代以上の男女では「高齢者世帯の見守り・安否確認」「災害時要援護者支援」「誰でも社会参加できる風土づくり」と回答する割合が多い。また「高齢者世帯の見守り・安否確認」は20～30歳代でも重要と回答した割合が多い。ライフステージにより、重要と考える取組の違いが明らかになる一方、全年代を通して「高齢者世帯の見守り・安否確認」は重要な取り組みと考えていることが分かった。

- 高齢者世帯の見守り・安否確認
- 介護者への支援
- ▨ 認知症に対する理解・支援
- 障がい児者に対する理解・支援
- 子育て中の親への支援
- 生活困窮者・世帯への就労支援・学習支援
- 介護予防・生活習慣病等を予防するための健康づくりの取組
- こどもの居場所づくり
- ▨ 祭りやイベントなど様々な世代の方が交流できる場
- ボランティアなど地域活動の担い手の充実
- ▨ 年齢や障がいの有無に関わらず、誰でも社会参加できる風土づくり
- 災害に備えた要援護者支援の仕組みづくり
- ▨ 外国人居住者に暮らしやすいまちづくり
- その他



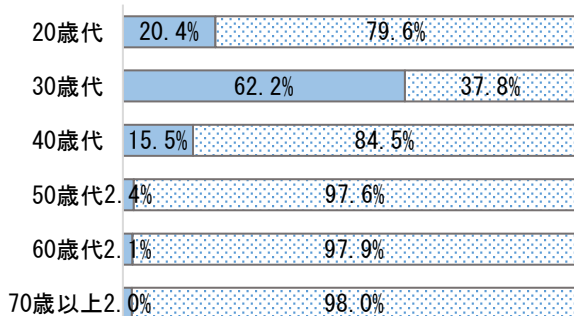




【再掲】問 2×問 7 年代別同居家族（問 6 で 2~5 と回答した人）

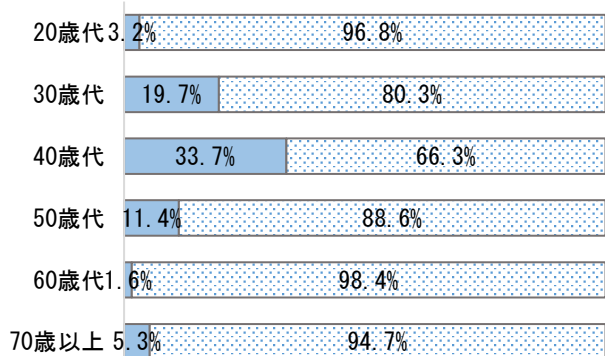
P<0.05

未就学児（保育園・幼稚園児を除く）【n=1022】



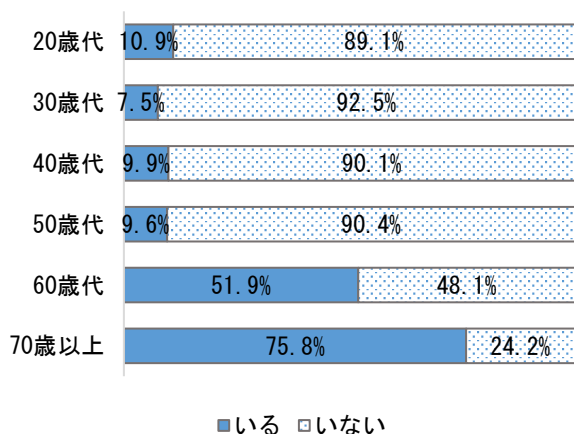
■いる □いない

小学生 【n=1026】

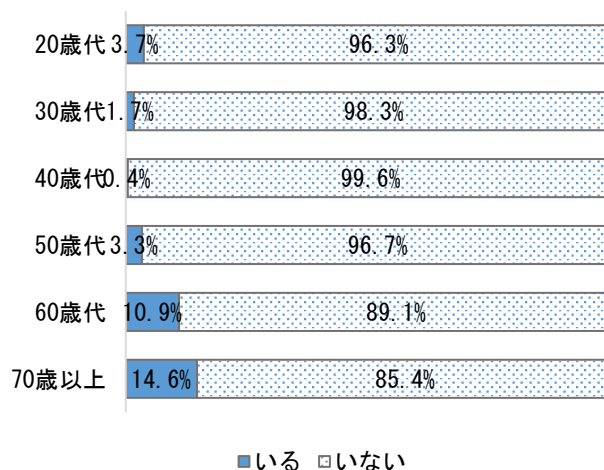


■いる □いない

介護を要しない65歳以上の高齢者
【n=1296】



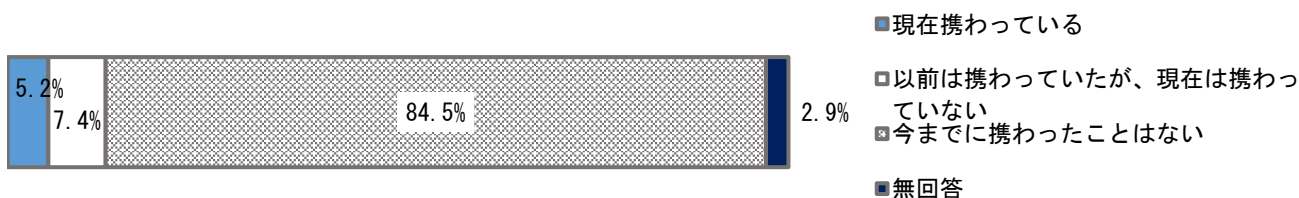
要介護などの要支援者 【n=1251】



問23 隣近所で困っている方への手助けや見守り

【n=1,672】

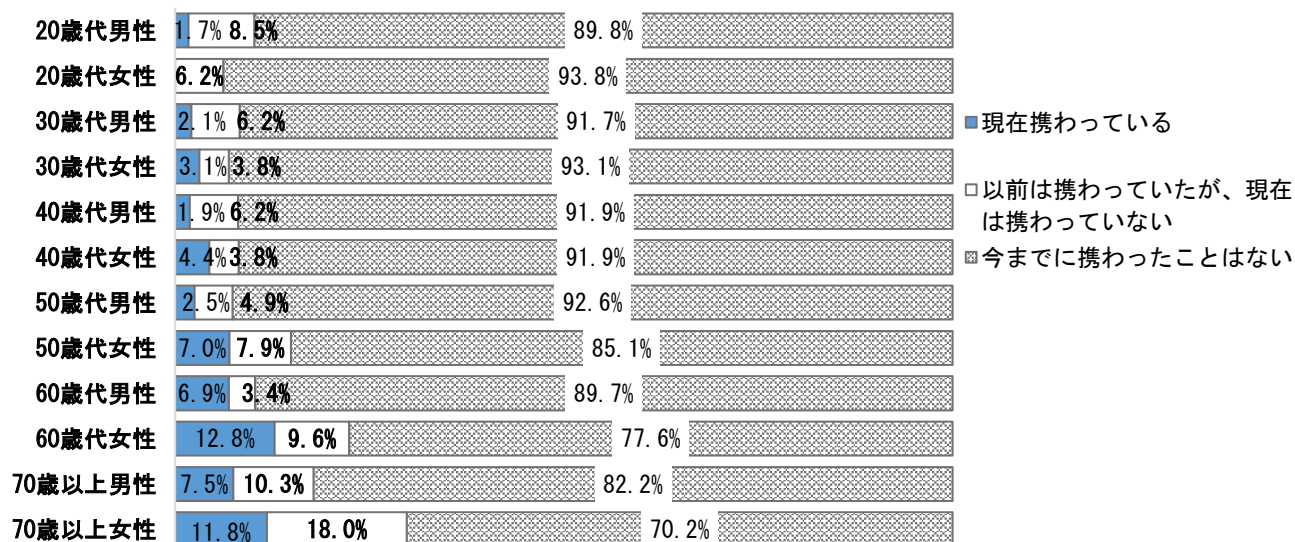
「手助けや見守りに携わっている」と回答した割合は、現在と過去を合わせて全体の約1割にとどまっているが、年代が上がるに従い増加する傾向がある。現在携わっているのは60歳代女性が最も多く、過去に携わっていたのは70歳代以上女性が最も多い。



問23×問1×問2 性年代別隣近所で困っている方への手助けや見守り【n=1,618】

P<0.05

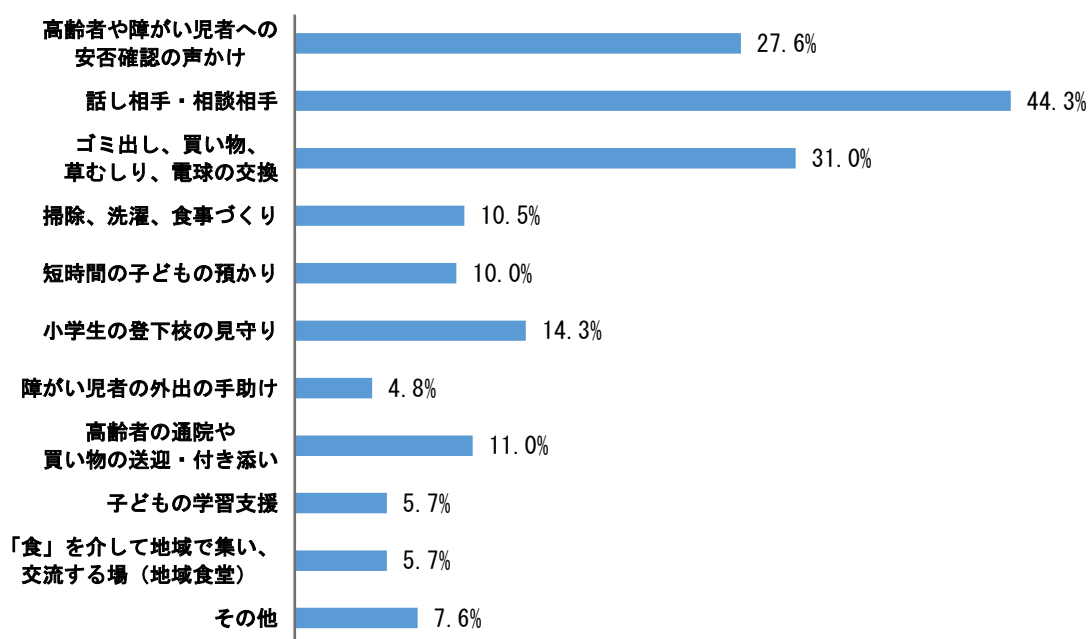
「手助けや見守りに携わっている」と回答した割合は、現在と過去を合わせて全体の約1割にとどまっているが、年代が上がるに従い増加する傾向がある。現在携わっているのは60歳代女性が最も多く、過去に携わっていたのは70歳代以上女性が最も多い。



問24 手助けや見守りの具体的内容 (複数回答) 【n=210】

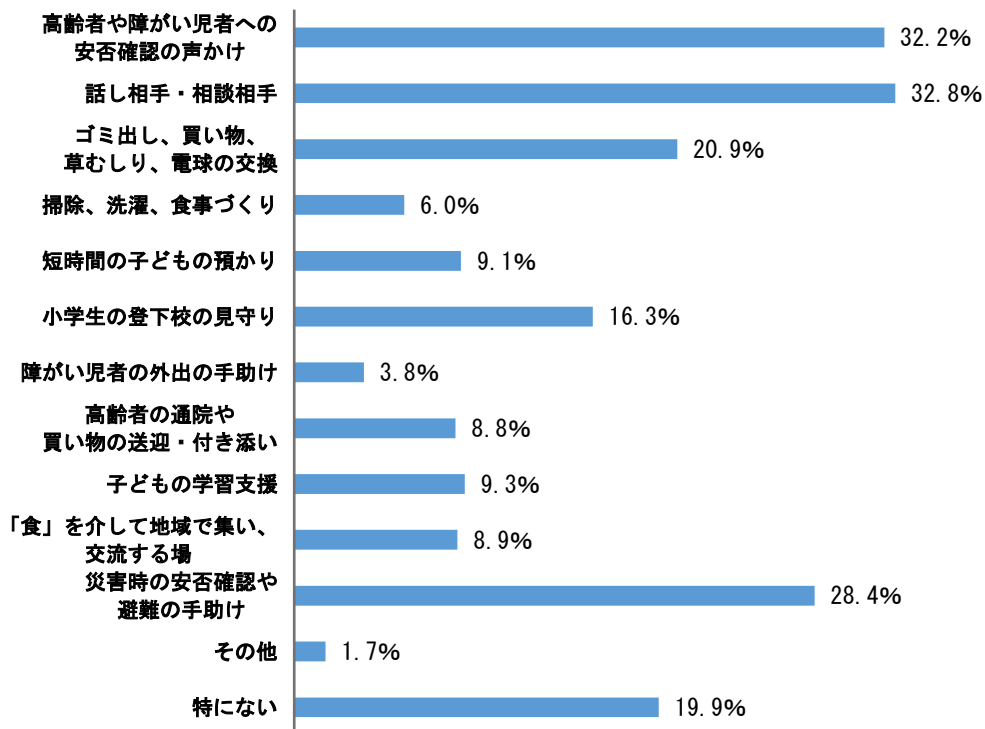
※問23で「現在携わっている」「以前携わっていた」と回答した人

手助けや見守りの内容として、「話し相手・相談相手」と回答した割合が最も多く、次いで「ごみ出し・買い物・草むしり・電球交換」「高齢者や障がい児者への安否確認の声かけ」の順に多い。



問25 今後、自分ができると思う困っている方への手助け（複数回答） 【n=1,673】

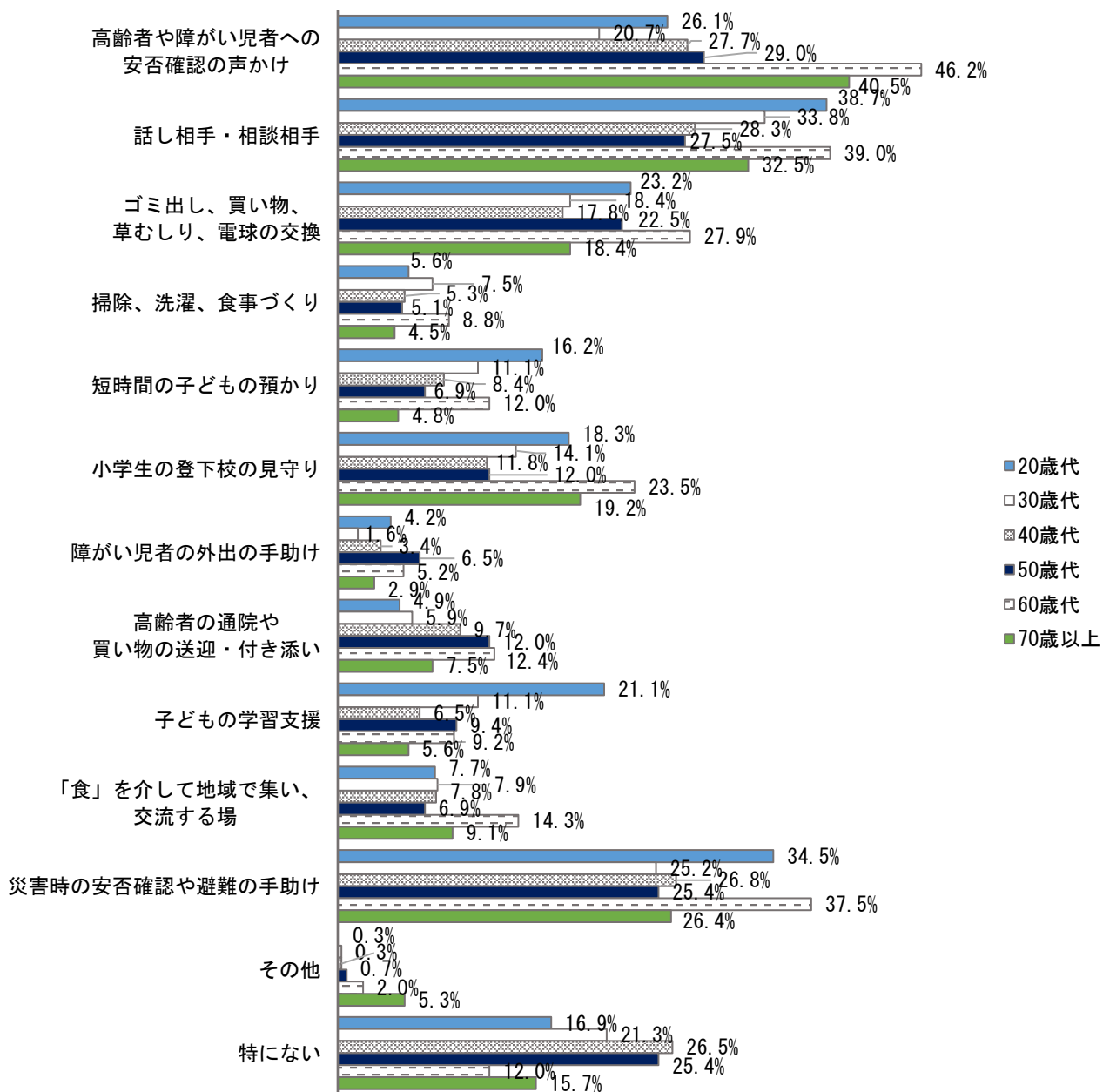
全体の8割が何らかの手助けができると回答し、内容として現状同様「話し相手・相談相手」「ごみ出し・買い物・草むしり・電球交換」「高齢者や障がい児者への安否確認の声かけ」と回答した割合が多いが、現状と比較すると「災害時の安否確認や避難の手助け」と回答した割合が大きく増加している。災害を切り口とした要援護者への支援について、前向きに考えている傾向が明らかになった。



問25×問2 年代別今後、自分ができると思う困っている方への手助け

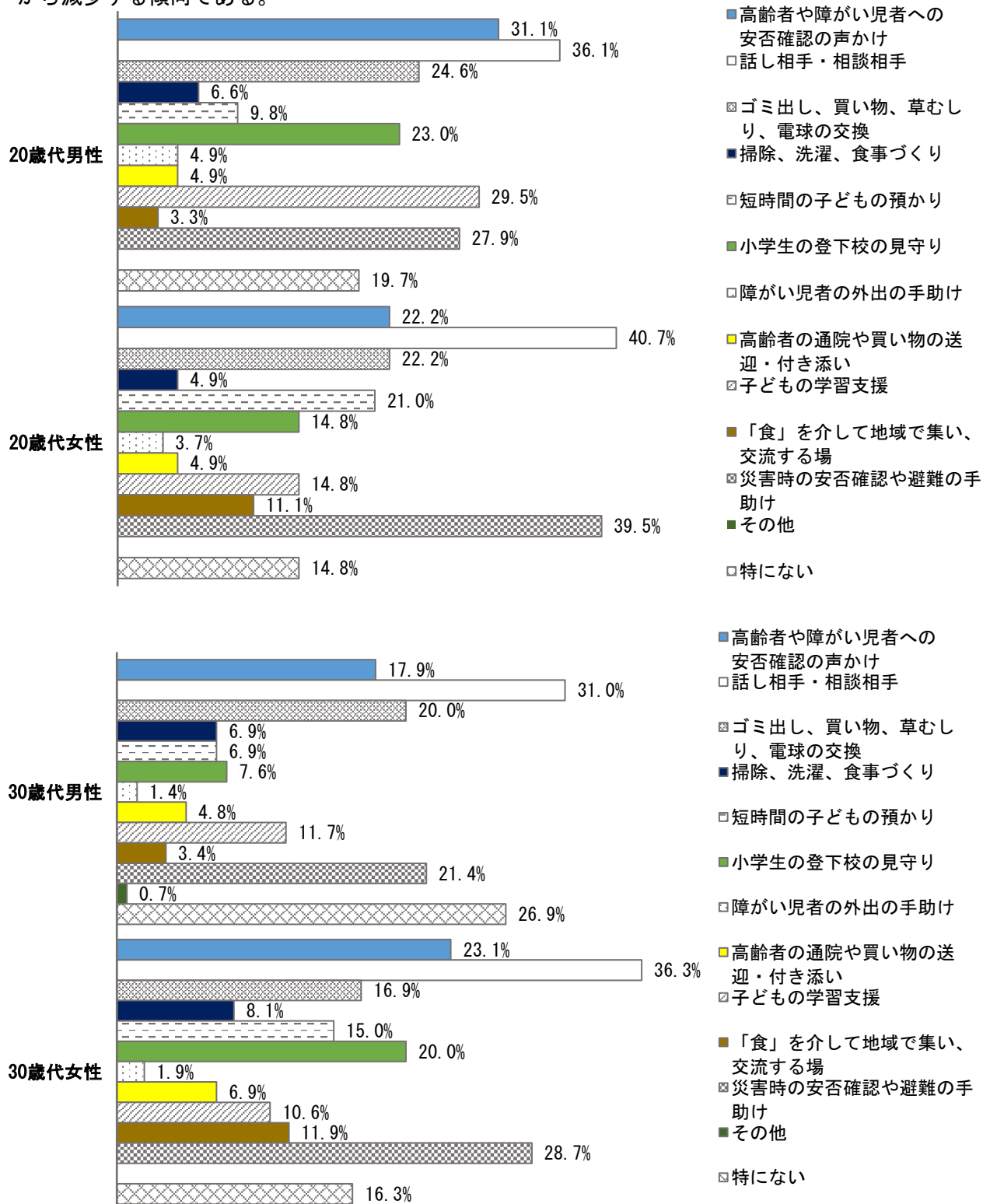
(複数回答) 【n=1,670】

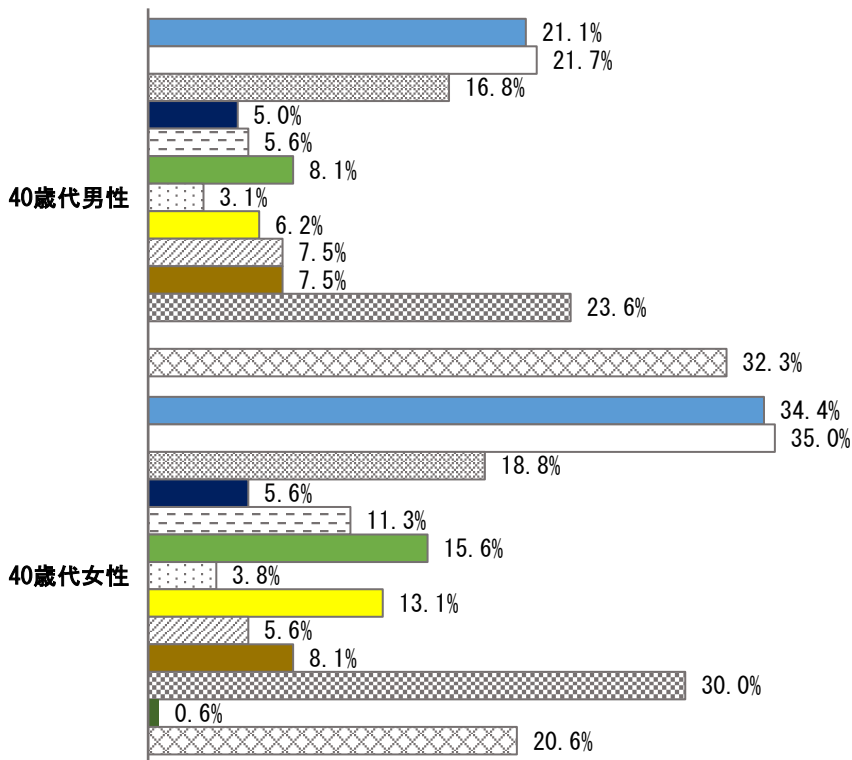
全年代で「高齢者や障がい児者への安否確認の声かけ」「話し相手・相談相手」「災害時の安否確認や避難の手助け」と回答した割合が多い。反対にほとんどの年代で「障がい児者の外出の手助け」と回答した割合は少なく、40～50歳代の4分の1は手助けできることは特にないと考えている。また、他年代に比べ20歳代は「子どもの学習支援」「短時間の子どもの預かり」に、60歳代は「短時間の子どもの預かり」「障がい児者の外出の手助け」「子どもの学習支援」以外の手助けに積極的だと考えられる。



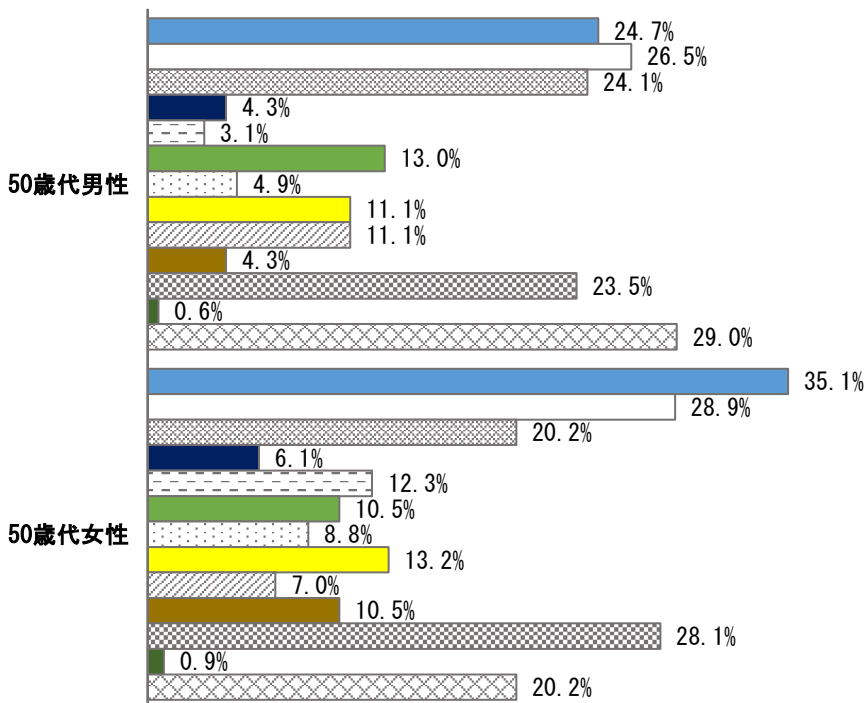
問25×問1×問2 性年代別今後、自分ができると思う困っている方への手助け
(複数回答) 【n=1,666】

40歳代男性は、自分にできる手助けがあると回答する割合が、他の属性と比較して全体的に少ない。「安否確認」と回答する割合は、女性では40歳代から、男性では60歳代から増加する傾向であった。「話し相手・相談相手」と回答する割合は、女性では全年代を通して多い傾向だが、男性では40歳代から減少する傾向である。

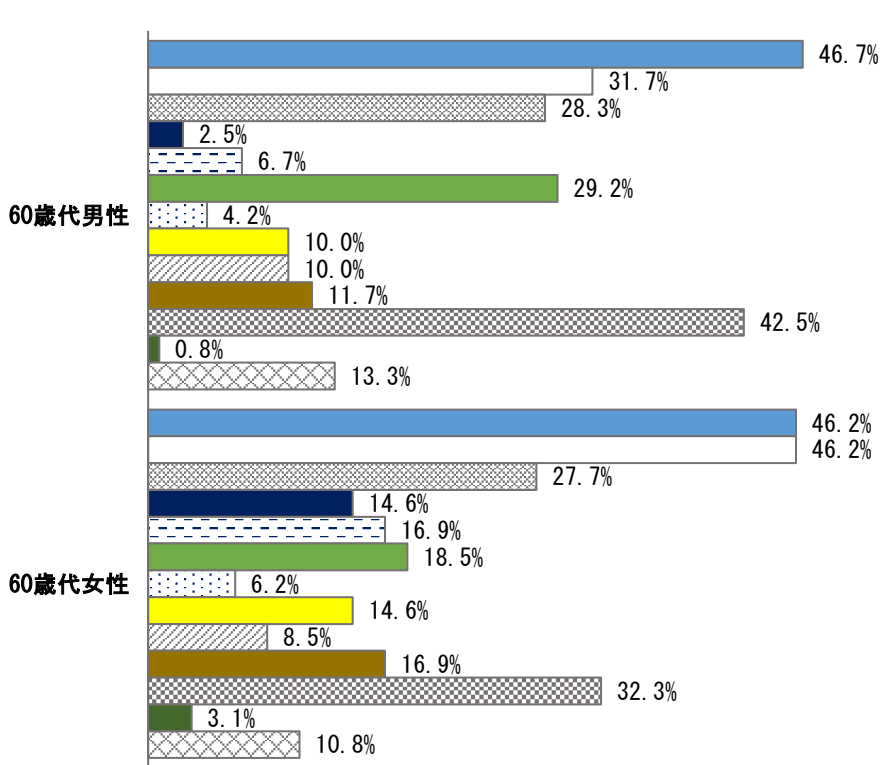




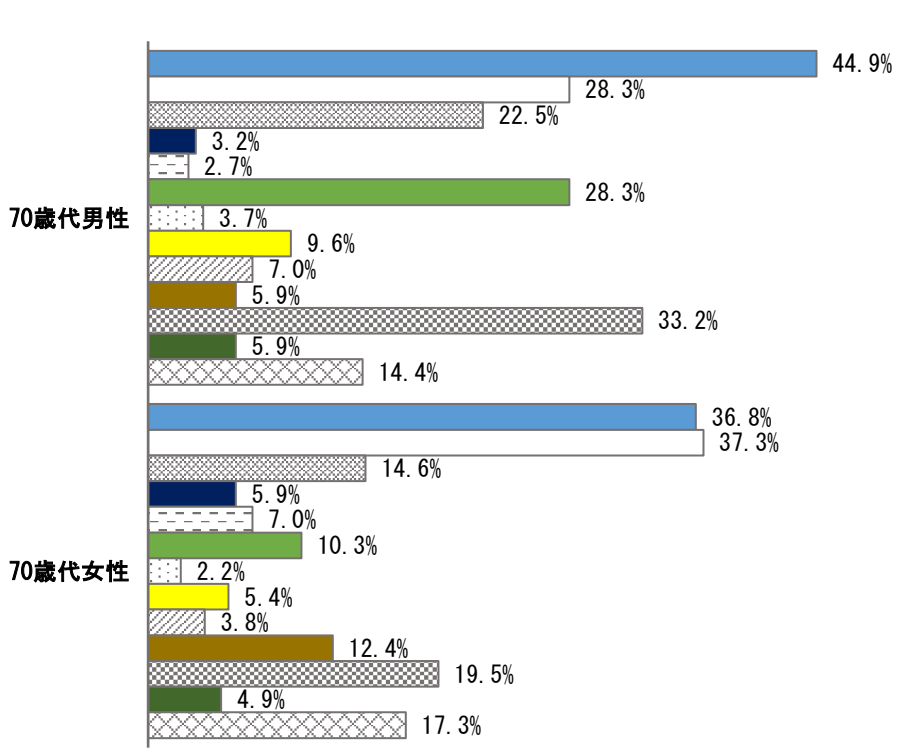
- 高齢者や障がい児者への安否確認の声かけ
- 話し相手・相談相手
- ☒ ゴミ出し、買い物、草むしり、電球の交換
- 掃除、洗濯、食事づくり
- 短時間の子どもの預かり
- 小学生の登下校の見守り
- 障がい児者の外出の手助け
- 高齢者の通院や買い物の送迎・付き添い
- ☒ 子どもの学習支援
- 「食」を介して地域で集い、交流する場
- ☒ 災害時の安否確認や避難の手助け
- その他
- ☒ 特にない



- 高齢者や障がい児者への安否確認の声かけ
- 話し相手・相談相手
- ☒ ゴミ出し、買い物、草むしり、電球の交換
- 掃除、洗濯、食事づくり
- 短時間の子どもの預かり
- 小学生の登下校の見守り
- 障がい児者の外出の手助け
- 高齢者の通院や買い物の送迎・付き添い
- ☒ 子どもの学習支援
- 「食」を介して地域で集い、交流する場
- ☒ 災害時の安否確認や避難の手助け
- その他
- ☒ 特にない



- 高齢者や障がい児者への安否確認の声かけ
- 話し相手・相談相手
- ▣ ゴミ出し、買い物、草むしり、電球の交換
- 掃除、洗濯、食事づくり
- 短時間の子どもの預かり
- 小学生の登下校の見守り
- 障がい児者の外出の手助け
- 高齢者の通院や買い物の送迎・付き添い
- ▣ 子どもの学習支援
- 「食」を介して地域で集い、交流する場
- ▣ 災害時の安否確認や避難の手助け
- その他
- 特にない



- 高齢者や障がい児者への安否確認の声かけ
- 話し相手・相談相手
- ▣ ゴミ出し、買い物、草むしり、電球の交換
- 掃除、洗濯、食事づくり
- 短時間の子どもの預かり
- 小学生の登下校の見守り
- 障がい児者の外出の手助け
- 高齢者の通院や買い物の送迎・付き添い
- ▣ 子どもの学習支援
- 「食」を介して地域で集い、交流する場
- ▣ 災害時の安否確認や避難の手助け
- その他
- 特にない

【参考】28年度区民意識調査との比較

※比較可能な項目のみ掲載

平成 28 年度港北区区民意識調査概要

- (1) 調査対象：港北区在住の 18 歳以上男女
- (2) 調査方法：郵送調査及びインターネット登録モニターによる WEB 調査
- (3) 有効回答数：2,215 件（郵送 1,715 件《34.3%》、WEB 調査 500 件）
- (4) 調査期間：郵送調査 平成 28 年 12 月 1 日～平成 29 年 1 月 10 日
WEB 調査 平成 28 年 12 月 1 日～12 月 15 日

【回答者属性】

1 性・年代別

今回調査

H28 区民意識調査

年代	男性	女性		年代	男性	女性	
合計	843	830		合計	1018	1192	
20 歳代	61	81	8%	20 歳代	94	129	10%
30 歳代	145	160	18%	30 歳代	21	235	21%
40 歳代	161	160	19%	40 歳代	191	220	19%
50 歳代	162	114	16%	50 歳代	47	172	14%
60 歳代	120	130	15%	60 歳代	55	180	15%
70 歳代以上	187	185	22%	70 歳代以上	10	256	21%
無回答	7			無回答	5		

回答者の構成については、70 歳代以上が多い。28 年度区民意識調査とほぼ同程度。

2 居住年数

今回調査

H28 区民意識調査

居住年数	今回調査	割合	H28 区民意識調査	割合
合計	1673		2215	
0～2 年未満	125	7%	230	10%
2～5 年未満	175	10%	248	11%
5～10 年未満	207	12%	248	11%
10～20 年未満	335	20%	435	20%
20～30 年未満	277	17%	311	14%
30～40 年未満	204	12%	285	13%
40 年以上	347	21%	444	20%
無回答	3		4	

居住年数では、平成 28 年度区民意識調査と変わらず、10～20 年と 40 年以上の割合が多い。

3 住まいの形態

今回調査

H28 区民意識調査

合計	1673		2215	
持ち家	1162	69%	1519	69%
賃貸住宅	475	28%	612	28%
社宅・寮	25	1%	47	2%
その他	11	1%	5	0%

住まいの形態は、平成 28 年度区民意識調査と変わらず、持ち家と回答した割合が 7 割を占める。

4 家族構成

今回調査

H28 区民意識調査

合計	1673		2215	
ひとり暮らし	292	17%	357	16%
夫婦のみ	501	30%	624	28%
親と子（2 世代）	772	46%	1055	48%
祖父母と親と子（3 世代）	62	4%	128	6%
その他	35	2%	31	1%
無回答	11	1%	20	1%

家族構成は、平成 28 年度区民意識調査と変わらず、親子 2 世代と回答した割合が最も多く、約 5 割を占める。

5 職業

今回調査

H28 区民意識調査

合計	1673		2215	
会社員・公務員・団体職員	689	41%	926	42%
自営業・自由業	111	7%	134	6%
パート・アルバイト	206	12%	247	11%
学生	29	2%	63	3%
主婦・主夫	359	21%	421	19%
無職	254	15%	386	17%
その他	12	1%	17	1%
無回答	13	1%	21	1%

構成割合は、平成 28 年区民意識調査と変わらず、常勤雇用者が最も多く、約 4 割を占める。

【近隣との関係】

6 自治会加入の有無

今回調査

H28 区民意識調査

合計	1673		2215	
加入している	1093	65%	1565	70%
加入していない	572	34%	637	29%
無回答	8	1%	13	1%

平成 28 年度区民意識調査と比較して、やや自治会加入率が低い。

7 隣近所との付き合い（現状と今後の意向）

今回調査

	現状		今後		
合計	1673		1673		増減
顔もよく知らない/顔を知っている	264	16%	317	19%	↑
声をかけることはない/声をかけ合う	497	30%	520	31%	
たまに立ち話をする	667	40%	432	26%	↓
相談・助け合う	128	8%	277	17%	↑
互いの家を行き来するなどある程度親しくする	105	6%	85	5%	
無回答	12	1%	42	3%	

H28 区民意識調査

日頃		理想		
2215		2215		増減
327	15%	80	4%	↓
642	29%	307	14%	↓
1049	47%	1018	46%	
122	6%	623	28%	↑
64	3%	103	5%	
11	0%	84	4%	

今後は相談や互いに助け合う関係を望むと回答した割合が増加しているものの、顔見知り程度
の関係を望むと回答した割合も増加している。

8 ひっとプランで特に必要と考える取組

※複数回答

今回

H28 区民意識調査

合計	1673		2215	
地域活動への参加促進	366	22%	313	14%
地域活動の活性化と拡がり促進	259	15%	237	11%
次世代人材の育成	423	25%	746	34%
人と人とのつながりづくり	630	38%	562	25%
誰でも参加できる場づくり	358	21%	437	20%
健康寿命の延伸	251	15%	328	15%
要支援者を支援につなげる仕組みづくり	294	18%	452	20%
相談・支援の環境整備	550	33%	698	32%
要援護者支援の仕組みづくり	433	26%	664	30%
必要性なし	146	9%	177	8%
無回答	45	3%	76	3%

ひっとプランの取り組みのうち、「人と人とのつながりづくり」を特に必要と回答する割合が最も多い。平成28年区民意識調査では「次世代人材の育成」と回答する割合が最も多い。

調査票

